

CREATEC

施工マニュアル

sangetsu

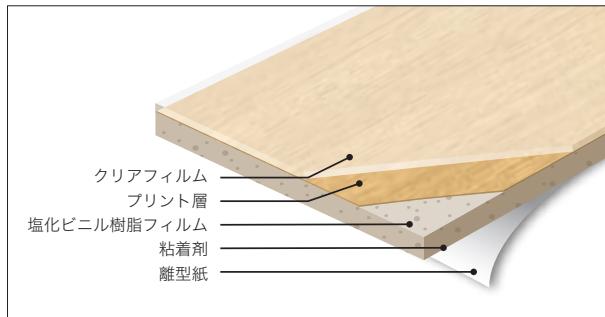
目 次

1 リアテックの特性と施工環境に関する注意事項	01
製品について	
2 貼り付けに関して	02~03
施工環境 下地調整 下地調整一覧 裁断・貼り 施工後 水まわりへの施工 屋外への施工	
リピート図 エアスルー	
3 必要な用具類	04~06
下地処理用副資材 浴室パネル施工用副資材 推奨副資材	
下地処理用具	
貼り施工用具	
4 下地調整の基本的な方法	07~10
石膏ボード ケイ酸カルシウム板 モルタル	
焼付塗装鋼板 亜鉛めっき鋼板 アルミニウム板 ステンレス板	
シナベニヤ合板・ラワン合板 MDF	
塩ビ鋼板 メラミン化粧板・ポリエステル化粧合板 ガラス	
5 平面部の基本的な施工方法	11~12
6 出隅部への施工方法	13~14
7 入隅部への施工方法	15~16
8 ジョイントの施工方法	17~19
突合せ・重ね切り 重ね貼り	
9 二次曲面(丸柱)への施工方法	20
10 三次曲面への施工方法	21
11 室内ドアへの施工方法	22
12 目地部分(壁面・間仕切りなど)への施工方法	23
13 ユニットバスリフォームの施工方法	24
14 浴室パネルの施工方法	25~26
15 リアテックパネルの施工方法	27~28
16 玄関ドアフィルムの施工方法	29~30
17 エレベーター(扉・カゴ内)へ施工する場合の注意事項	31
18 メンテナンス上の注意事項	32
清掃手順 メンテナンス上の注意	
19 保管・輸送上の注意事項	32
保管・運搬上の注意 その他	

1. リアテックの特性と施工環境に関する注意事項

製品について

リアテックは粘着剤付化粧フィルムです。



製品仕様 |

素材 塩化ビニル樹脂フィルム
形状 1,220mm×50m ロール状
※一部30m・40m ロール状あり
厚み 約0.2mm

一般物性 |

物性	試験方法	基準・結果
寸法安定性	200×200mmのアルミニウム板に、150×150mmのリアテックを貼り付け、中央に100×100mmの大きさの切り込みを十字に入れ、65°Cに2日間放置した後、切り込みの最大隙間を測定する。	最大隙間0.3mm以内
耐ヒートサイクル性	アルミニウム板にリアテックを貼り付け、-30°C×12時間→65°C×12時間を1サイクルとし、合計12サイクル実施後の剥離や外観変化、変色の有無を確認する。	剥離などの異常や著しい変化なし
耐候性	サンシャインカーボンアーク灯式耐候性試験機により、250時間照射後の外観変化、変色の有無を確認する。	著しい変化なし
耐摩耗性	テーパー式摩耗試験機(摩耗輪 CS-17・1kg荷重)による摩耗終点を確認する。	7,000回転以上
耐熱性	アルミニウム板にリアテックを貼り付け、65°Cで28日間放置後、剥離などの有無を確認する。	剥離などの異常なし
耐湿性	アルミニウム板にリアテックを貼り付け、40°C・湿度90%に28日間放置後、剥離などの有無を確認する。	剥離などの異常なし
耐低温衝撃性	アルミニウム板にリアテックを貼り付け、デュポン衝撃試験機を使用し、0°Cの環境下で1/2インチ径を用い、100gの荷重を100mmの高さから落下させる。	フィルムの割れ発生なし

接着力 |

(単位: N/25.4mm)

試験下地	プライマー無し	プライマー塗布
シナベニヤ	13.4	35.6
石膏ボード	11.3	12.4 ^{※1}
ケイ酸カルシウム板	4.7	30.6
メラミン焼付鋼板	18.7	36.4
塩ビ鋼板	34.8	33.5
アルミニウム	21.2	34.8
ステンレス	21.6	35.1
アクリル	24.5	35.5
モルタル	21.8	37.5
MDF	11.1	35.1
電気亜鉛めっき鋼板	24.8	35.3
ABS	24.5	33.3
メラミン化粧板	18.8	32.7 ^{※2}
ポリエスチル化粧合板	22.6	29.0 ^{※2}
ガラス	22.6	40.6

※1 石膏ボード上紙の材料破壊
※2 下地材からのプライマー剥離

試験方法: 幅25.4mm、長さ180mmの帶状のリアテックを上記の下地に貼り付け、20°Cで48時間放置した後、

テンション型万能引張試験機を行い、引張速度300mm/分で180度方向に引き剥がす。

※ 接着力は商品によって若干異なります。

※ プライマー塗布条件: 20°C・オープンタイム1時間

※ データ値について: 上記の試験結果は代表品番による測定値であり、保証値ではありません。

2. 貼り付けに関して

選択・施工上の注意

施工環境 |

原則として内装使用

リアテックは一部商品を除き、原則として内装用途にお使いください。

施工環境(ホコリ・チリ)

施工する際は施工面だけでなく、床面の清掃も行い、必要に応じて水をまく等、防塵対策を行ってください。本品と施工面の間に異物が入るとフクレ等の原因となります。

照明

必要に応じて照明器具を使用し、明るい環境で施工してください。

施工環境が暗い場合、異物の混入や気泡を見逃すおそれがあります。

湿度

下地に湿気があると施工できません。下地を十分に乾燥させた後に施工してください。

静電気

空気が乾燥して静電気が発生しやすい場合は、床に霧吹きなどで水をかけてください。

施工温度

【施工温度】

- ・本品の施工可能温度範囲は12~38°C程度ですが、最適な施工温度範囲は20~25°C程度です。
- ・現場で本品を保管する場合は、直射日光を避け、温度は38°C以下で保管してください。
- ・施工後の急激な温度変化はフクレ・目隠の原因となるため避けてください。

【低温時(12°C未満)】

- ・低温時は裏面の接着効果が発揮されにくく接着不良になりやすいので施工を延期するか、またはジェットヒーターを用意するなど現場環境を改善してから施工してください。
- ・また、低温時はフィルムが裂けやすくなりますのでご注意ください。

【高温時】

- ・直射日光が当たる下地面は、極端に接着力が強くなり、貼り付け後の微調整も困難で作業性が悪くなります。この場合は時間帯をずらして、下地が冷めるのを待ってから施工してください。
- ・高温時はフィルムがより柔軟になり、施工しにくくなる場合があります。
- ・スチール下地への施工の際は、直射日光が当たる場所は冬季でも高温になっている場合がありますのでご注意ください。

R面施工でのドライヤー使用

本品を折り曲げて施工する場合、商品によってはR面部分が白くなる場合があります。ドライヤーなどで温めながら貼り付けるか、貼り付けた後に温めてください。

下地調整 |

下地の清掃

下地表面の水分やゴミ・油分などを完全に除去し、汚れのないよう清掃してください。

下地の平滑・乾燥

下地は必ず凹凸がなく平坦で乾燥している状態で施工してください。

シーラー・パテ・プライマー

下記の表を参考にシーラー・パテでの処理後、より強く接着するためにプライマー処理をおすすめします。専用プライマーはRTII、RP-100、RA、RSです。

コーナーテープ

コーナー部分には必ずコーナーテープをご使用ください。

養生テープ・粘着テープ

養生テープ・粘着テープなどを本品表面に長時間貼ったままにしないでください。
べたついてきついに剥がせなくなる場合があります。

下地の色の影響

下地の色が本品表面の色に影響を及ぼす場合がありますのでご注意ください。

傾斜面や水平面への施工

傾斜面や水平面に施工した場合の耐用年数は垂直面の場合と比較して短くなります。

ペニヤ下地の油分除去

ペニヤ合板下地については油分をよく拭き取ってから施工してください。

下地の継ぎ目の固定

ケイ酸カルシウム板、石膏ボード、合板下地の継ぎ目部分はビスやタッカーワークで完全に固定してください。貼り付け時に本品を圧着することで下地が動き、パテが割れる場合があります。

無垢材等の接着不良・フクレ

無垢材、集成材、真鍮、銅、鉛下地は、接着不良によりフクレが生じることがありますので施工しないでください。

ガラスへの施工

ガラスに貼る場合は汚れを除去してから直接貼り付けてください。ただし直射日光が当たる場合は、粘着剤が劣化したり、ガラスが熱割れを起こす場合があります。また本品の裏面には塩化ビニル製を表す∞PVCマークが印刷されていますので、ガラス面から透けて見える場合があります。

下地調整一覧 |

下地/工程	前処理	シーラー処理	パテ処理	サンディング	表面清掃	プライマー処理
石膏ボード	釘頭・段違い処理	—	セレクト(上塗)/エース(下塗)	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100/RA
ケイ酸カルシウム板	釘頭・段違い処理	シーラーS	セレクト(上塗)/エース(下塗)	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RA
モルタル	金こて仕上げ 乾燥状態確認	シーラーS	セレクト(上塗)/エース(下塗)	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100
焼付塗装鋼板	錆・油脂成分除去	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RP-100/RS
電気亜鉛めっき鋼板	錆・油脂成分除去	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100/RS
アルミニウム板	錆・油脂成分除去	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RS
ステンレス板	錆・油脂成分除去	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100/RS
ガラス	—	—	—	—	アルコール	—
シナペニヤ合板 ラワン合板	釘頭・段違い処理	SAシーラー	セレクト(上塗)/エース(下塗)	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100/RA/RS
MDF	釘頭・段違い処理	SAシーラー	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RTII/RP-100/RA/RS
塩ビ鋼板	表面状態確認	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RP-100/RS
メラミン化粧板 ポリエステル化粧合板	—	—	ポリエステル系パテ	#180~240サンドペーパー	アルコール	RP-100/RS

※表面清掃のアルコールは必要に応じてご使用ください。

2. 貼り付けに関して

裁断・貼り

カット・引き出し時のキズ

ロール状の本品をカットしたり巻き直したりする際は、表面にキズがつかないように床や作業台の養生を行ってください。

床置きせずロール状に立てる

裁断した本品の一時保管は、離型紙が内側になるように巻き、端部をマスキングテープで仮止めして立ててください。

裁断した本品を引きずったり表面を直接床につけないでください。表面にキズがついたり、破損するおそれがあります。

平面状にすると剥離

ロール状の本品を引き出して平面状にすると離型紙とフィルムが剥がれることができますので注意してください。

ロットによる差異

本品は厳正な品質管理を行っておりますが、ロットにより多少の差異が生じる場合があります。異なるロットを同じ面に使用することは避けてください。

方向性

本品は単色であっても方向性があります。裏面の離型紙ロゴと同じ方向に合わせて施工してください。本品の裁断位置により突合せ部の左右の濃さが極端に異なる場合がありますので、裁断位置や貼る方向に注意してください。なお、エンボスにも方向性があります。逆方向に貼ると光線の加減で色違いに見える場合がありますので注意してください。

施工後

高温・多湿

常時50°C以上となる場所や、水中、湿度が高い場所への施工は避けてください。

水まわりへの施工

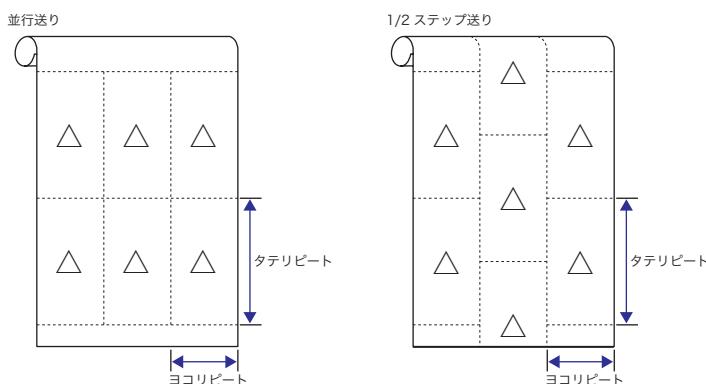
▶施工方法P.24~26へ

浴室への施工には下記マークのついたアリテック抗菌・防かびタイプをご使用ください。シートの表面から水分が浸透することはございませんが、端部や下地から水分が入り込むと接着不良を起こすおそれがあります。金属など含水しない下地をご使用になるか、端部への防水処理を十分に行ってから施工してください。

◆ 抗菌・防かび性能があります。

リピート図

アリテックの全ての柄にはリピートがあります。製法上避けられないバラつきがありますので、リピート値は参考値とお考えください。この数値をもとにした材料取りや裁断を行わないよう注意してください。また、ジョイントをする際は事前にご確認ください。



リピート

本品は製法上、リピートを正確に合わせることができません。ジョイントをする際は事前にご確認ください。

ジョイント(突合せ施工・重ね切り)

▶施工方法P.17~18へ

突合せ(重ね切り)施工の際は施工後に隙間が生じる場合があります。特に濃色の場合は目立つことがあります。下地に同系の色を塗っておくことをおすすめします。ジョイント部分の下地にはプライマーを2度または3度塗りしてください。また本品を突合せ(重ね切り)する際は下地を切らないように注意してください。目隠の原因となります。

ジョイント(重ね貼り)

▶施工方法P.19へ

重ね貼りする際は、重ねる部分にプライマー ベンリダイナ RP-100またはRSを塗布し、乾燥させてから施工してください。その際プライマーがはみ出さないよう注意してください。

重ね貼りは防火性能が取得できない

内装制限がかかる部位について、既存の化粧フィルムの上に本品を重ね貼りすると、防火性能は取得できませんので注意してください。

出隅・入隅・三次曲面

▶施工方法P.13~16/P.21へ

出隅・入隅部分、また三次曲面に施工する場合は入念にプライマー処理を行い、接着強度を高めてください。

凸凹面のある下地

タイル面など、凸凹のある下地には施工しないでください。フクレや剥がれが発生する場合があります。

最大強度

本品裏面の粘着剤は、時間の経過とともに下地との密着性が上がります。貼り替えなどで本品を剥がす際、種類によっては下地を傷める場合がありますので注意してください。

屋外への施工

▶施工方法P.29~30へ

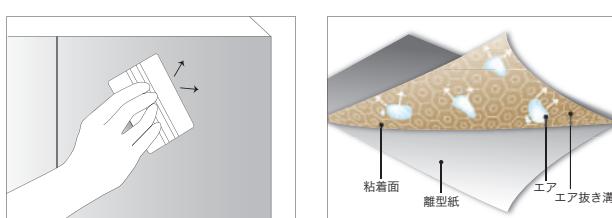
屋外への施工には下記のお日様マークのついた本品、または高耐候アリテックをご使用ください。また、屋外に面したドアへの施工には、玄関ドアフィルムをご使用ください。

◆ 屋外垂直面使用で約3年の耐候性があります。

◆ 屋外垂直面使用で約5年または約10年の耐候性があります。

エアスルー

本品はエア抜きが容易なエアスルー加工を採用しています。裏面の溝が空気の通り道をつくり排出するため、施工がすばやく簡単に行えます。



3. 必要な用具類

下地処理用副資材

- ・シーラー | ①ベンリダインシーラーS/②SAシーラー
- ・パテ | ③ベンリダインセレクト(上塗用)/④エース(下塗用)
 - | エポキシねんどパテ(穴埋めなどの補修)
 - | ポリエステルパテ(穴埋めなどの補修)
 - | 液硬化型簡易樹脂パテ(簡易補修用)
- ・プライマー | ベンリダイン⑤RT II/⑥RP-100/⑦RA/⑧RS

浴室パネル施工用副資材(推奨品)

- ・両面テープ | コニシ(株) ボンドTMテープ R1 1.1mm×25mm×10m
| セメダイン(株) ボードテープ 310 1.1mm×20mm×10m
- ・弾性接着剤 | コニシ(株) ボンド MPX-1(変成シリコン系)
| セメダイン(株) PM165-R
- ・シーリング剤 | コニシ(株) 変成シリコンシーラント
| セメダイン(株) POSシール
- ・ジョイナー | (株)創建 ビニールジョイナー
H型/HG-3.5 2.42m or 2.73m
コ型/GC-3.5 2.42m or 2.73m
出隅/出隅3 2.5m or 2.73m
入隅/入隅3 2.5m or 2.73m

推奨副資材 ベンリダイン



各種下地の調整剤

シーラーS 水性 規制対象外

品番: BB-317 容量: 4 kg



各種下地の調整剤

SAシーラー 水性 規制対象外

品番: BB-318 容量: 4 kg



石膏ボードの目地処理、総パテ仕上げ剤

セレクト [上塗用]

品番: BB-456 容量/可使時間: 8 kg / 60 分

品番: BB-457 容量/可使時間: 8 kg / 90 分

品番: BB-458 容量/可使時間: 8 kg / 120 分

使用方法

- ・水で3倍 (SAシーラー: 水=1:2) を標準として希釈してください。



石膏ボードの目地処理、総パテ仕上げ剤

エース [下塗用]

品番: BB-459 容量/可使時間: 8 kg / 60 分

品番: BB-460 容量/可使時間: 8 kg / 90 分

品番: BB-461 容量/可使時間: 8 kg / 120 分

使用方法

- ・水を加えて適度な柔らかさに練り上げてください。



リアテック用下地処理剤(プライマー)

RT II 火気厳禁 JIS F☆☆☆☆

品番: BB-335 容量: 1 L

品番: BB-336 容量: 4 L

使用方法

- ・原液のまま使用してください。
- ・溶剤による2~3倍希釈の使用もできます。



リアテック用下地処理剤(プライマー)

RP-100 火気厳禁 JAIA F☆☆☆☆

品番: BB-550 容量: 500 ml

使用方法

- ・原液のまま使用してください。下地により2回塗り、3回塗りしてください。



リアテック用水性下地処理剤(プライマー)

RA 水性 低臭 規制対象外

品番: BB-543 容量: 2 kg

使用方法

- ・水で2~4倍に希釈してご使用ください。
- ・塗布後30~60分が乾燥の目安です。



リアテック用水性下地処理剤(プライマー)

RS 火気厳禁 低臭 JPMA F☆☆☆☆

品番: BB-466 容量: 1000 ml

使用方法

- ・原液のまま使用してください。下地により2回塗り、3回塗りしてください。



RS専用

ペン型プライマー容器

品番: BB-333 容量: 50 ml

使用方法

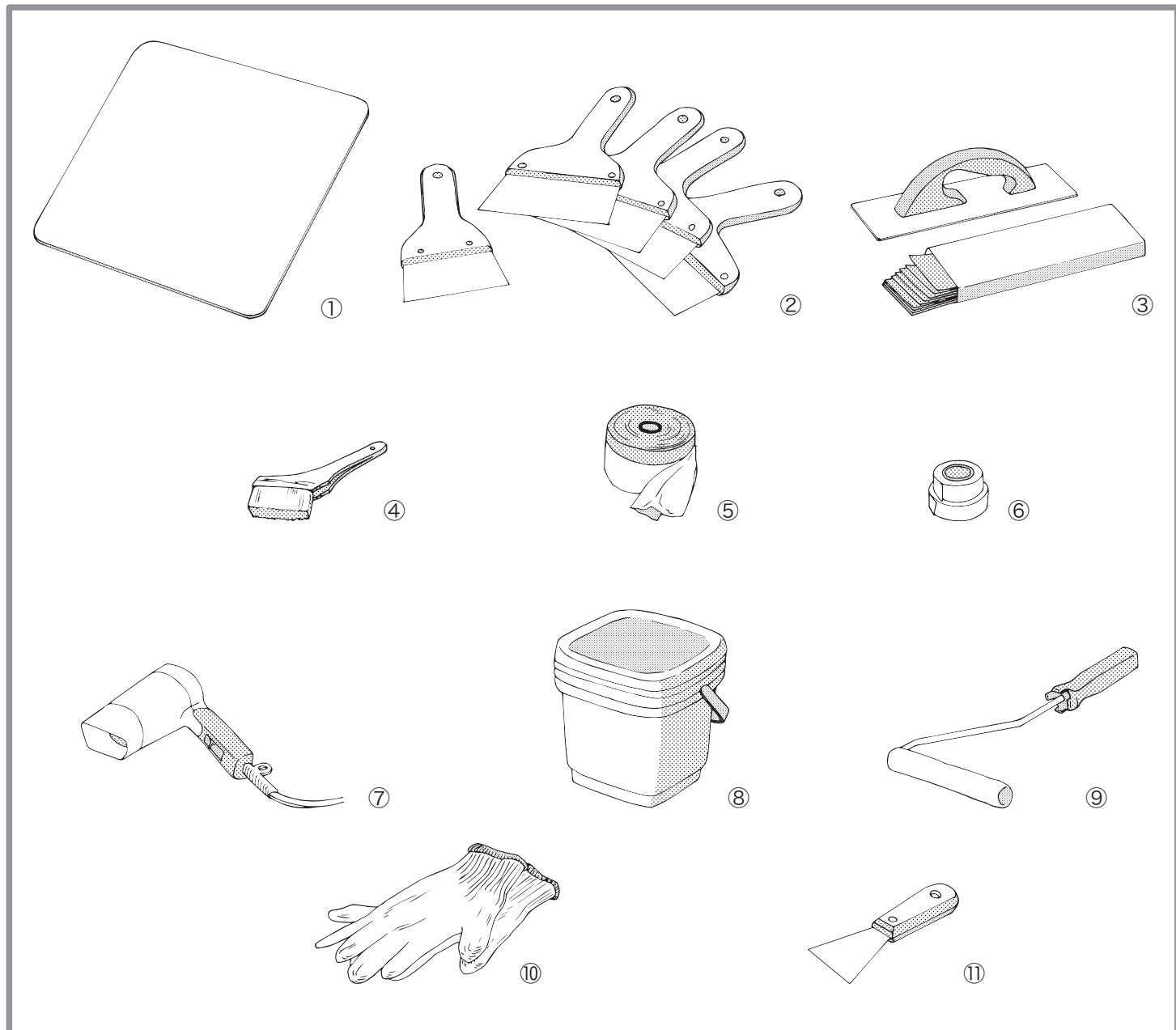
- ・RS専用のペン型プライマー容器です。
- ・ベンリダインRSを当該容器に入れてご使用ください。
- ・コンパクトな容器で持ち運びに最適です。
- ・RS以外はペン先が固まってしまうため、使用しないでください。

※詳細はベンリダインカタログを参照ください。

3. 必要な用具類

下地処理用具

- ①パテ板(パテ処理用)
- ②パテベラ(パテ処理用)
- ③サンドペーパー(#100~240)
- ④刷毛(シーラー・プライマー用)
- ⑤マスカー(養生用)
- ⑥マスキングテープ(青・ガラスシール用)
- ⑦ハンドドライヤー(シーラー・プライマー乾燥用・曲面貼り込み用)
- ⑧コマセバケツ(プライマー塗布用)
- ⑨スモールローラー(シーラー・プライマー塗布用)
- ⑩軍手
- ⑪皮スキ(異物除去用)

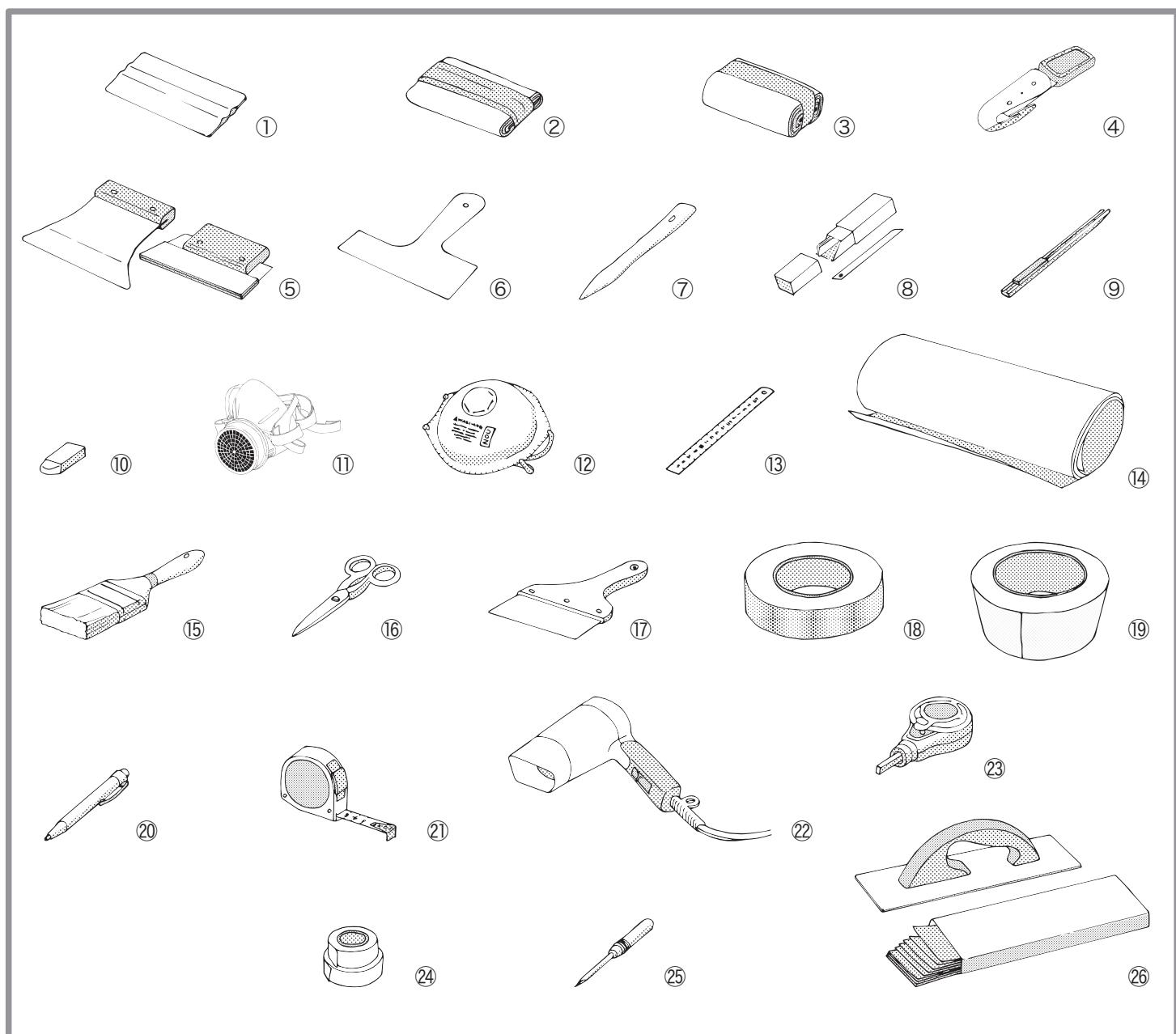


※イラストはイメージです。

3. 必要な用具類

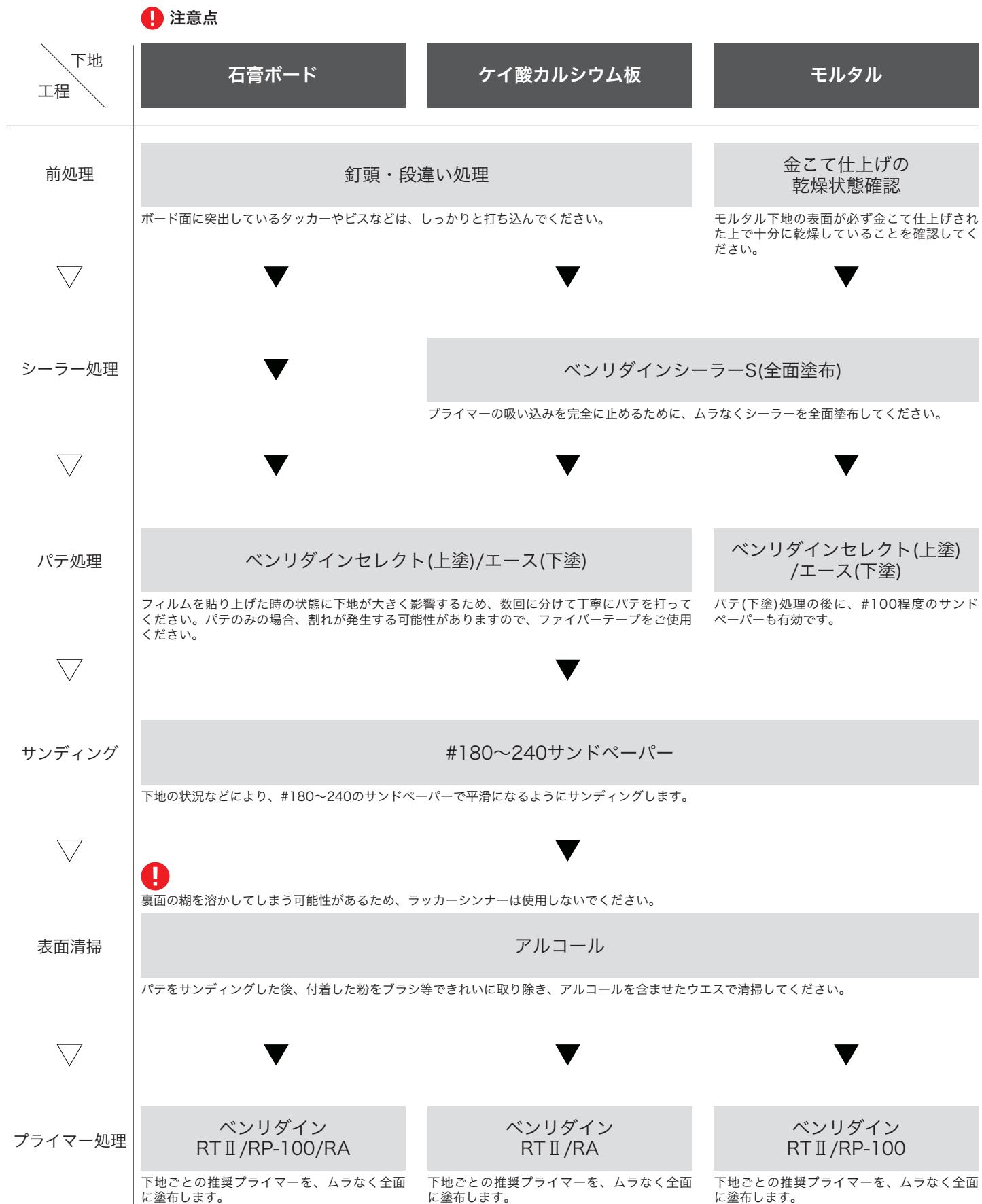
貼り施工用具

- ①スキージー(細部用)
- ②スキージー | 布巻き・ネル・フェルト(平面施工用)
- ③スキージー角押し | 布巻き・ネル・フェルト(コーナー部分用)
- ④下敷きカッター | リアテック下敷きカッター(離型紙スリット用)
- ⑤シートヘラ1.2mm厚(目地押し込み用)
- ⑥地べら1.2/0.6mm厚 | カット用抑えヘラ(カット用)
- ⑦樹脂べら(角出し用)
- ⑧カッターの替え刃(ステンレス) | 白ステンレス刃
- ⑨カッター
- ⑩プラスチック消しゴム(艶消し用)
- ⑪防毒マスク | 有機溶剤用(黒缶)
- ⑫防塵マスク
- ⑬直定規
- ⑭カッティングマット | 長尺シート2.0mm厚×300mm幅
- ⑮ラスター(ゴミ掃き用)
- ⑯ハサミ(細部材料カット用)
- ⑰ケレン用ヘラ(平面・ブツ・ゴミ除去用)
- ⑱ファイバーテープ(35mm幅・薄手)
- ⑲養生テープ(仮止め用)
- ⑳ダーマトグラフ | 建築用チョーク(離型紙に書く)
- ㉑コンベックス(寸法取り用)
- ㉒ハンドドライヤー(ヒートガン)
- ㉓チョークライン
- ㉔マスキングテープ(青・ガラスシール用)
- ㉕キリ(穴空け用)
- ㉖サンドペーパー(#100~240)



※イラストはイメージです。

4. 下地調整の基本的な方法



4. 下地調整の基本的な方法



4. 下地調整の基本的な方法

ポイント ! 注意点

下地
工程

シナベニヤ合板
ラワン合板

MDF

前処理

釘頭・段違い処理

ボード面で突出している釘やビスなどは、しっかりと打ち込んでください。



シーラー処理

ベンリダインSAシーラー(全面塗布)

プライマーの吸い込みを完全に止めるために、ムラなくシーラーを全面塗布してください。



パテ処理

状況により、ファイバーテープをご使用ください。

ベンリダインセレクト(上塗)/エース(下塗)

ポリエステル系パテ

フィルムを貼り上げた時の状態に下地が大きく影響するため、数回に分けて丁寧にパテを打ってください。

フィルムを貼り上げた時の状態に下地が大きく影響するため、数回に分けて丁寧にパテを打ってください。



サンディング

#180~240サンドペーパー

下地の状況などにより、#180~240のサンドペーパーで平滑になるようにサンディングします。



裏面の糊を溶かしてしまう可能性があるため、ラッカーシンナーは使用しないでください。

表面清掃

アルコール

パテをサンディングした後、付着した粉をブラシなどできれいに取り除き、アルコールを含ませたウエスで清掃してください。



状況により、2度塗りしてください。

ベンリダインRTⅡ/RP-100/RA/RS

プライマー処理

下地ごとの推奨プライマーを、ムラなく全面に塗布します。

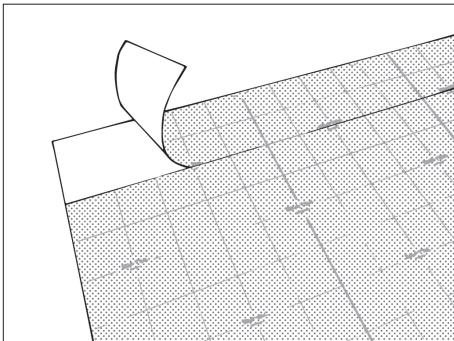
4. 下地調整の基本的な方法

下地 工程	POINT	注意点	ガラス
	塩ビ鋼板	メラミン化粧板 ポリエスチル化粧合板	
前処理	表面状態確認	表面の劣化している部分や錆を取り除きます。	▼
シーラー処理			▼
パテ処理	ポリエスチル系パテ	フィルムを貼り上げた時の状態に下地が大きく影響するため、数回に分けて丁寧にパテを打ってください。	▼
サンディング	#180~240サンドペーパー	下地の状況などにより、#180~240のサンドペーパーで平滑になるようにサンディングします。	▼
表面清掃	アルコール	裏面の糊を溶かしてしまう可能性があるため、ラッカーシンナーは使用しないでください。	アルコール アルコール アルコールを含ませたウエスで清掃してください。
プライマー処理	ベンリダインRP-100/RS	端部凹凸部は必ず重ね塗りしてください。	▼

5. 平面部の基本的な施工方法

フィルム貼り施工に関する基本的な手順と  ポイントおよび  注意点を説明します。

①採寸・裁断



貼り付け部分の寸法を正確に採寸し、貼り付け部分の実寸法よりも上下、左右共に100mm程度大きめにフィルムを裁断します。

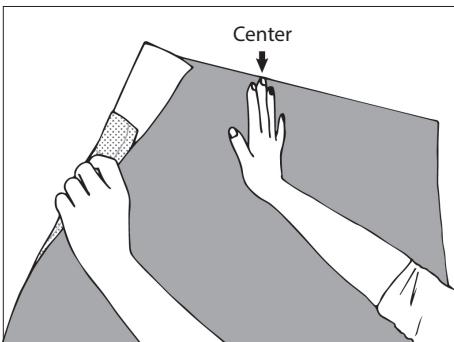


- ・フィルムを裁断する場合、離型紙の罫線を参考にしてください。
- ・フィルムの裁断は平滑な場所で行い、カッティングマットなどの下敷きを用い安定した状態で裁断すると、正確に裁断することができます。
- ・フィルムを裁断する場所は、ゴミやホコリなどフィルムにキズや異物がつかない環境で作業するようにしてください。



- ・フィルムにホコリなどが付着すると、仕上がりの状態が大きく左右されるため、静電気などにも注意してください。

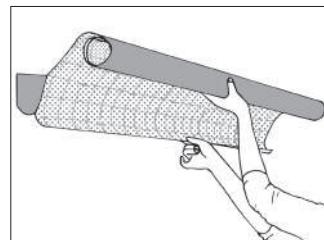
②仮止めと固定



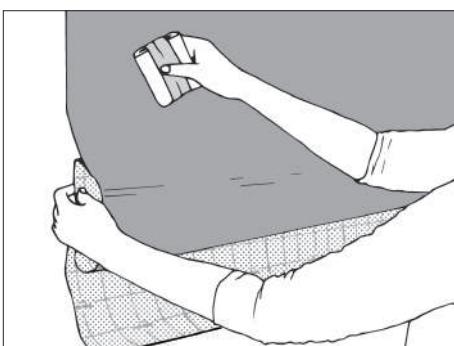
貼り始めの端から100~150mm程度、離型紙のみを下敷きカッター(P.14参照)で裁断し離型紙を剥がしてください。粘着剤が露出した面を仮圧着して、中央部分からスキージーで左右に貼り伸ばすように圧着してください。



- ・フィルムの垂直 / 水平を正確に決めて仮止めをしてください。
- ・貼り始めは、気持ちにゆとりをもって行ってください。
- ・上から下に圧着すると気泡やシワなどがでやすくなるためスキージーは左右へゆっくりと動かすようにしてください。



③全面貼り付け



離型紙を200~300mmずつゆっくり剥がし、下方向に軽くテンションをかけながら、徐々に上から下、中央から左右へとスキージーを移動させながら貼り付けてください。



- ・貼り付け面に対し、スキージーを45度程度傾け、一度圧着したところと半分程度重なるようにスキージーを動かしながら圧着して貼り下ろしていきます。床から300mm程度の所まで貼ったら、剥がした離型紙を床面に敷き込むと、静電気によって床のゴミを粘着面に付着させてしまうことを防ぐことができます。



- ・垂直面の壁面などにフィルムを貼り付ける場合、粘着面にゴミを付着させないために、ラスターなどで十分に床面を掃除してから、貼り付け作業を行ってください。

④再圧着(二次圧着)

全面貼り付けが完了したら、全体を再度強く圧着してください。

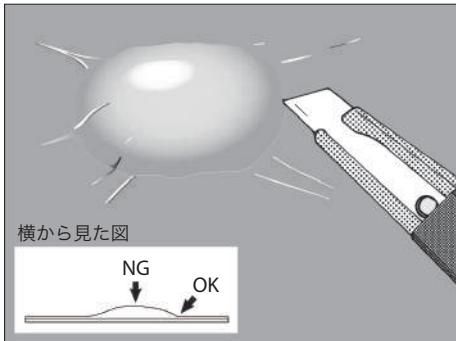


- ・特に端部やコーナー部分などは強く圧着してください。
- ・冬季での作業環境時など、気温が低い場合は貼り付け後ドライヤーなどで温めると気泡が確認しやすくなるとともに、接着力を高めることができます。



- ・リアテックの粘着剤は、感圧型の粘着剤のため、施工時の圧力が不十分だと、接着不良などの原因となる場合があります。十分に面圧をかけながら、貼り付け作業を行ってください。

⑤気泡の処理



気泡ができてしまった場合は、スキージーで気泡を小さくまとめて、気泡の横からカッターを斜めに寝かせて空気の排出口を作り、スキージーで空気を追い出すようにしてください。

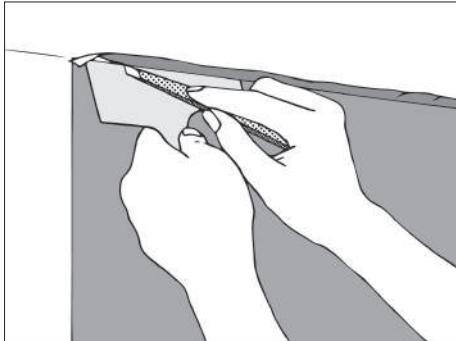


- ・切れ目を最小限にすると処理したあとが目立ちにくくなり、きれいに仕上げることができます。



- ・リアテックは、エアスルーパー加工により、施工時に粘着面に空気が残りにくくなるように設計されていますが、気泡を作らないためには、スムーズなスキージングを行うようにしてください。

⑥仕上げ



不要な部分をカッターで切り取って仕上げてください。また、切り取った端部などは最後にもう一度スキージーで圧着してください。



- ・施工を完了するための最終段階の作業は特に慎重に行ってください。

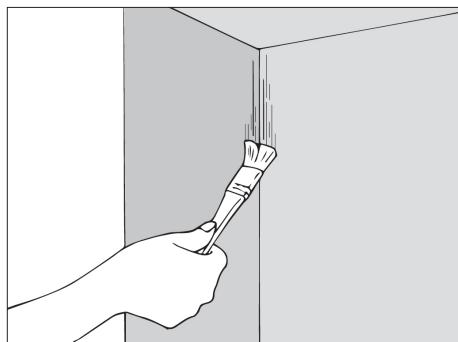


- ・仕上げのフィルムのカッティングは、ゆっくりと丁寧に行うことで、きれいに仕上げることができます。

6. 出隅部への施工方法

壁面の出隅や、建具などのコーナー部への施工手順と ポイントおよび **!** 注意点を説明します。

①プライマー塗布



出隅部など、フィルムを曲げて貼り付ける場合は、その部分の接着力を高めるために、プライマーをコーナーの頂点部分から左右にそれぞれ50~100mm程度の範囲に再度塗布します。

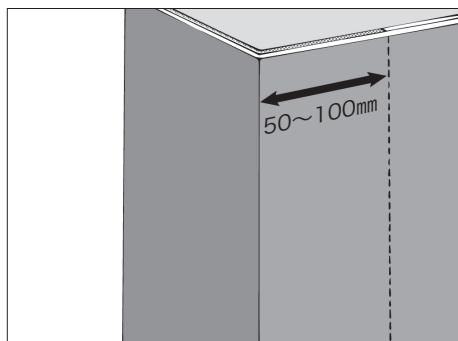


- 出隅部のプライマーを完全に乾燥させるために、十分なオープンタイムを取ってください。



- 特に石膏ボード下地やケイ酸カルシウム板下地の場合、出隅部の直角と直線が正確に出ていないと、フィルム貼り付け時に、シワの原因となることがあります。

②採寸・裁断と位置決め

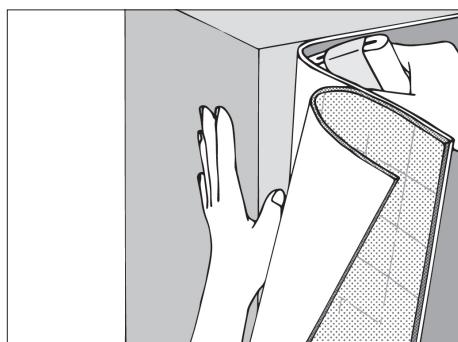


軽微な貼り直しの際、出隅部のパテ処理などを傷めないように、あらかじめ出隅に来る位置から50~100mm程度離型紙を残して裏スリットを入れておきます。その後、面積の広い面から貼り付けていきます。



- パテ処理済みの下地に貼り付け作業をする場合は、下地を傷めないように、離型紙を裏スリットする位置に注意して作業してください。

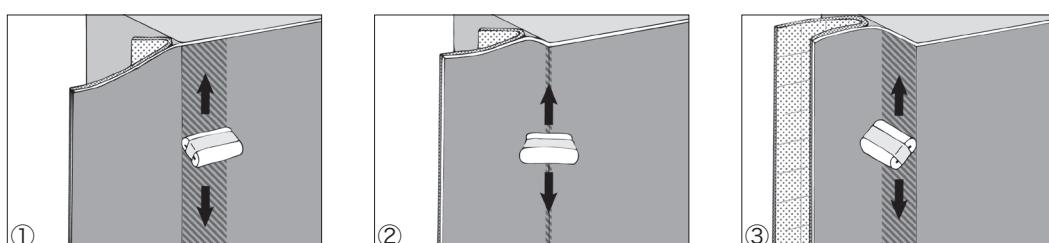
③コーナー決め



出隅部はスリットした離型紙を少しづつ剥がしながら縦に貼り付けます。気泡やたるみなどが残らないようにフィルムにテンションをかけながら3段階に圧着してください。

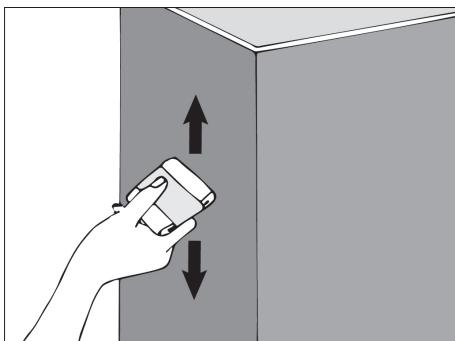


- 出隅部を曲げ込む際は、①出隅の手前②出隅の頂点③出隅の奥と、3段階での貼り付け作業を行ってください。その場合コーナー部分専用の厚めに布を巻き付けたスキージーもしくは軍手を使用すると安定した加圧を行うことができます。



- リアテックコートは、熱により白くなる場合がありますので、摩擦熱が起きないように、速度をつけてゆっくり圧着してください。具体的な品番は見本帳をご覧ください。

④全面の仕上げ



出隅を決めたら、残りの面を軽く引っ張りながら圧着してください。
最後に全体を再度圧着します。特にコーナー周辺はしっかり圧着してください。



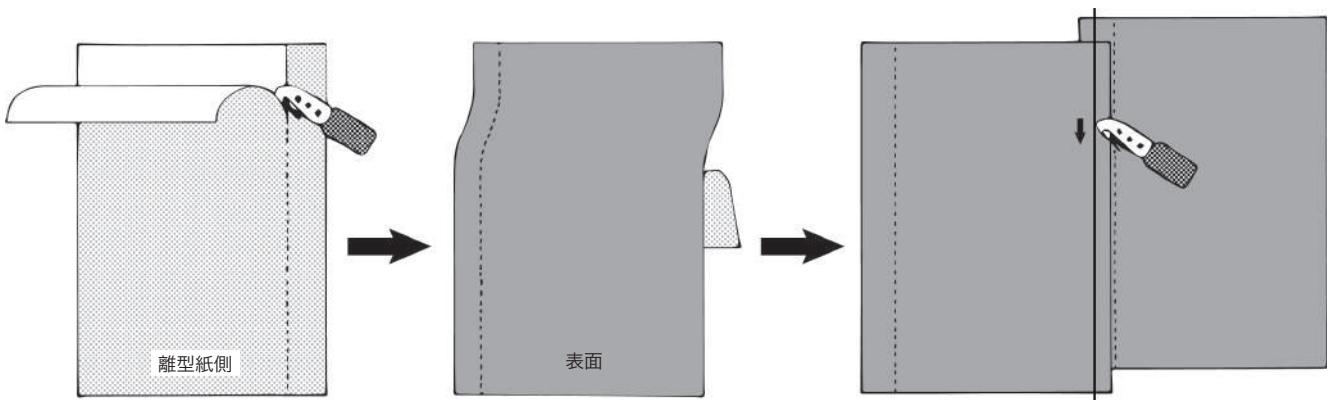
・出隅部にエアーや浮きなどが残らない
ように再度圧着してください。



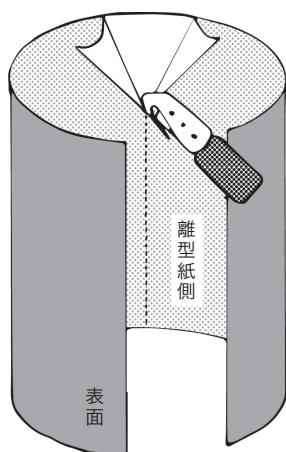
・出隅部は直線になっていない場合があるため、フィルムにシワなどを作らないために、出隅を曲げ込んだ後はコーナーのラインに対してスキーージーを平行に動かすようにして貼り付け作業を行ってください。

裏スリット

フィルムにキズをつけて離型紙のみを切り、ジョイントする際に耳部分のみ離型紙を残しておくことで、下地を切らずに重ね貼りができます。



フィルム裏面の離型紙の真ん中をカットすることで、
円柱などに貼る場合、真ん中で位置決めをして貼る
ことができます。



リアテック用離型紙カッター

品番 容量

BB-408

BB-409 10枚(替刃)

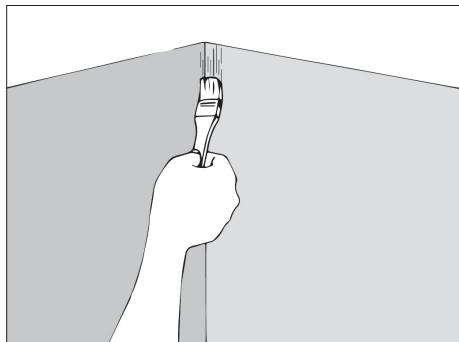
■付属品：専用替刃 10枚付

※ベンリダイナカタログ掲載商品

7. 入隅部への施工方法

壁面や什器などの入隅部の施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①プライマー塗布

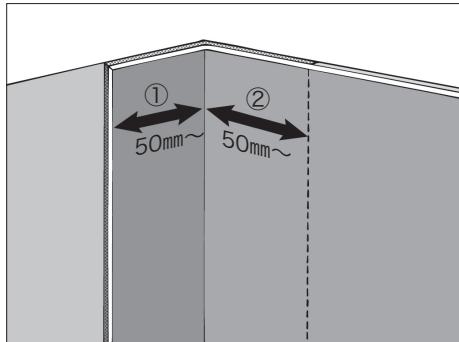


出隅部と同様に、プライマーをコーナーの頂点部分からそれぞれ50～100mm程度の範囲に再度塗布します。



- ・入隅部のプライマーを完全に乾燥させるために、十分なオープンタイムを取ってください。

②貼り付け位置の確認と位置決め

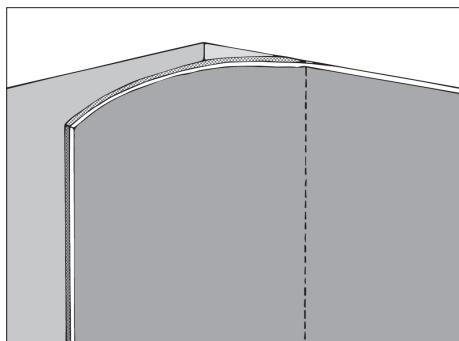


- ①フィルムを入隅部から50mm程度幅がとれるようにカットします。
- ②入隅部から50mm程度のところに裏スリットを入れます。

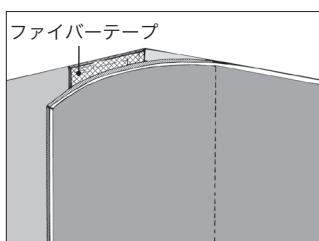


- ・位置決めは、作業する上で重要な部分ですので、慎重に行ってください。

③広い面から貼り付け

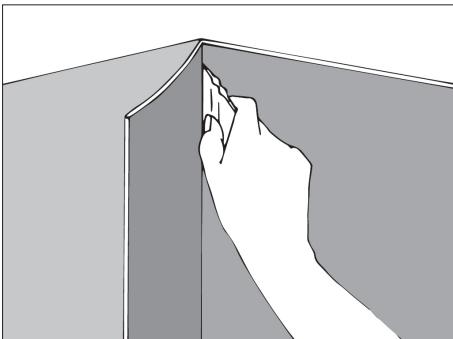


離型紙を残した部分がコーナー部にかかるように、面積が広い方から先に貼り付けてください。



- ・広い部分を貼り終えてから、狭い部分の離型紙を少しづつ剥がしながら入隅部に対して平行に貼り付け作業を行ってください。
- ・フィルムを貼り進める壁面側の下地に粘着面が貼り付かないように、ファイバーテープを貼ることも有効な作業方法の一つです。

④コーナーを決める

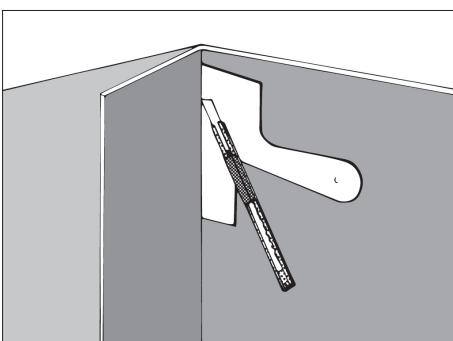


入隅部の貼り付けは、気泡やたるみが残らないように注意しながら、コーナー部に沿ってスキーージーで押し込んでください。

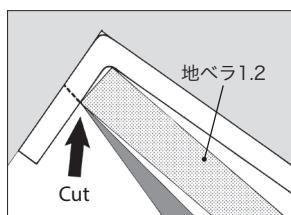


- 特に気温が低い環境で作業する場合は、フィルムが割れやすいため、押し込む際は、一度に押し込まずに数回に分けて注意して作業してください。

⑤チリ処理

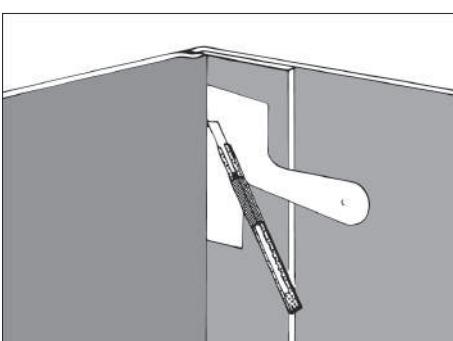


入隅部に地べらなどをあてて、余分なフィルムをカッターで切り取ります。この時、地べらの厚みくらい重なるようにフィルムをカットしてください。余分なフィルムを取り除きます。

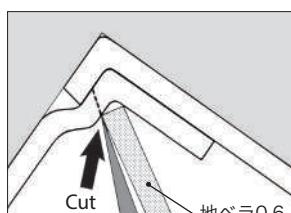


- 入隅部などに隙がある場合があるため、地べらの厚みくらい重なるように残してください。
- 1.2mm厚程度の地べらがおすすめです。

⑥2面目の貼り付け



反対面のフィルムを貼ります。同じように50mm程度余裕をみておきます。同じように圧着し、地べらをあて余分なフィルムを取り除きます。

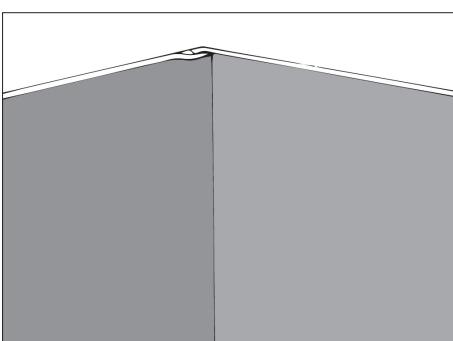


- 1枚目と2枚目のフィルムに重なりが取れるように、地べらの厚みを変えてカットしてください。
- 0.6mm厚程度の地べらがおすすめです。

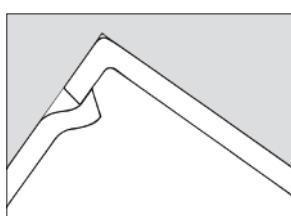


- 上に重なるフィルムをカットする際、下のフィルムをカットしないように注意してください。

⑦仕上げ



貼り付け面全体に再度圧着を行ってください。



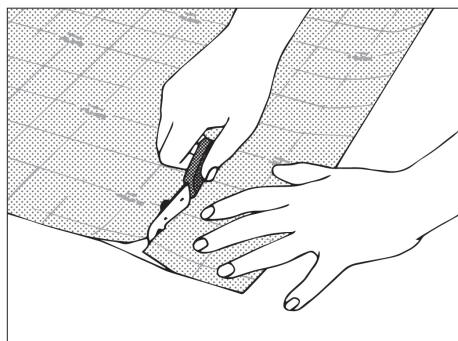
- フィルムの小口が壁側に向くようにカットしてください。

8. ジョイントの施工方法

突合せ・重ね切り

フィルムのジョイント施工方法(突合せ・重ね切り)について、施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①裏スリット



突合せる端から30mm程度の位置の離型紙に、裏スリットを入れておきます。

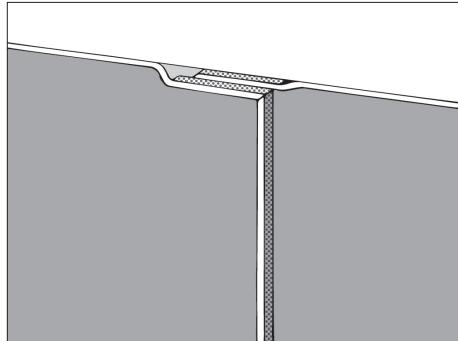


・重ね合せる部分の幅は、狭いほうが突合せがきれいに仕上がりやすいですが、位置決めが難しくなるため、30mm程度を目安とすることをおすすめします。



・フィルムがたるんだり、離型紙と粘着面が浮いたりしないように注意してください。

②つなぐ部分を重ねて貼り付け



突合せを行う部分は、スリットを利用して上下両面のフィルムとも離型紙を30mm程度残した状態で重ねて貼り付けます。

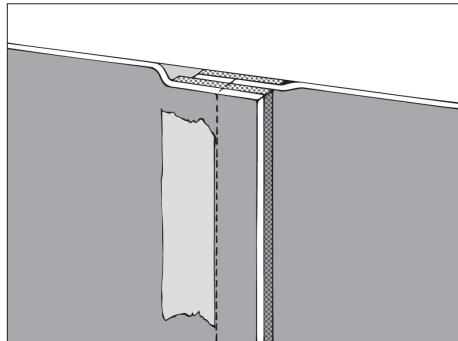


・離型紙の残した部分で重なるように貼り付けてください。



・この段階では、重ねた部分を強く圧着しないように注意してください。離型紙を残した部分が、たるんだりシワがよったりしないように、スキージーで平滑に整えてください。

③目印をつける

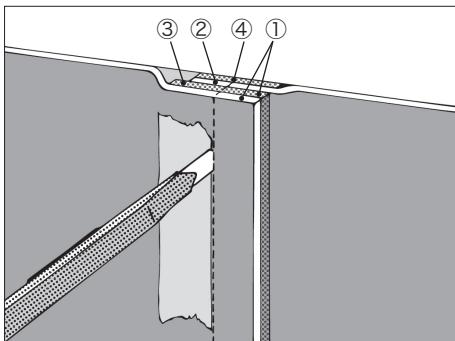


つなぎ目ができるだけ重なりの中央にくるように、突合せるラインにマスキングテープなどで目印をつきます。



・マスキングテープを使用して目印をつける場合、ガラスシール用など粘着力が弱めのものを使用すると、マスキングテープを剥がした時に、糊残りが無くきれいに作業することができます。

④カット

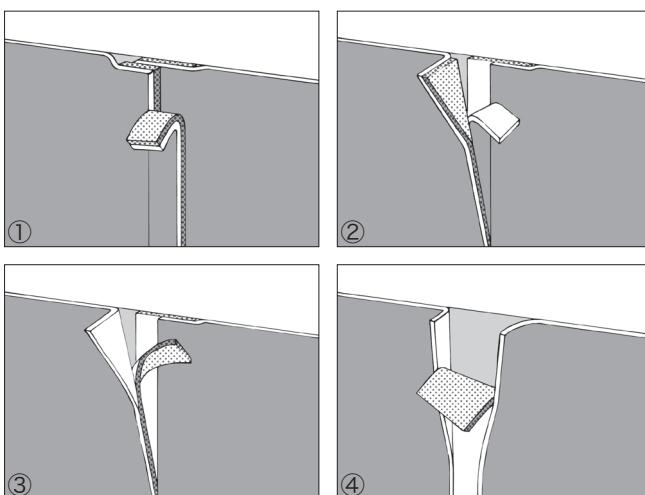


定規を使用して壁面に対して垂直になるように、目印を付けた部分に沿ってカッターの刃を入れてください。



- ・目隙の原因になるため、下地にまでカッターの刃が入らないように注意してください。

⑤不要な部分を取り除く



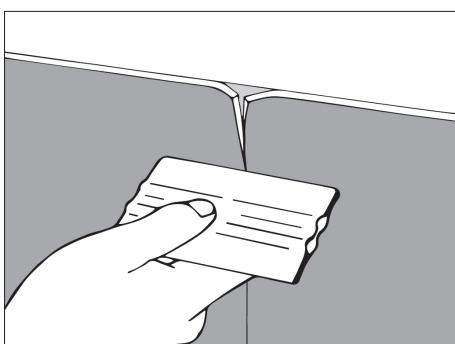
カットした端材を、左図の順に取り除いていきます。

- ①一番表面に出ているフィルムと離型紙
②下に重なったフィルム
③上に重なった離型紙
④一番下の離型紙



- ・端材のフィルムと離型紙を一度に剥がさないようにします。
- ・気温の高い時は、端材や離型紙を除去する際、フィルムが引っ張られ伸びてしまう可能性があるため作業は慎重に行ってください。

⑥突合せ部分を仮圧着する



左右のフィルムが重なり合ないように突合せ、スキージーを立てて部分的に仮圧着していきます。



- ・スキージーを寝かせると、部分的にフィルムが重なり合ってしまうことがあるので注意してください。

⑦突合せ部分を圧着する

突合せ部分に段差が生じていないことを確認してから、スキージーで上下に圧着し、きれいに密着させます。



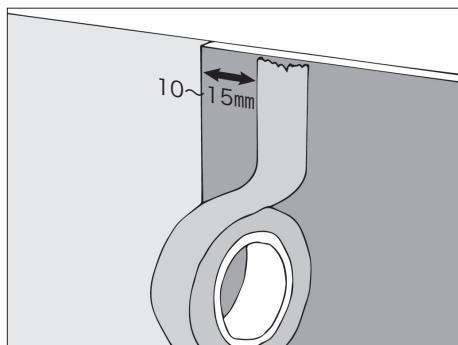
- ・最後に、貼り付け面全体を再度圧着してください。

8. ジョイントの施工方法

重ね貼り

リアテックのジョイント施工方法(重ね貼り)について、施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①マスキングテープを貼る

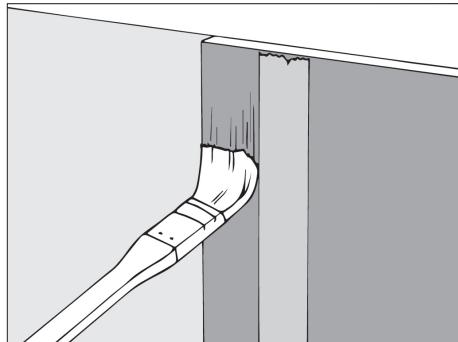


1枚目のフィルムを貼り、重ね代部分を10~15mm程度残してマスキングテープを貼ります。



- ・フィルムのつなぎ目が目立たないよう、どちらを上に重ねるかを考慮してください。

②プライマーの塗布

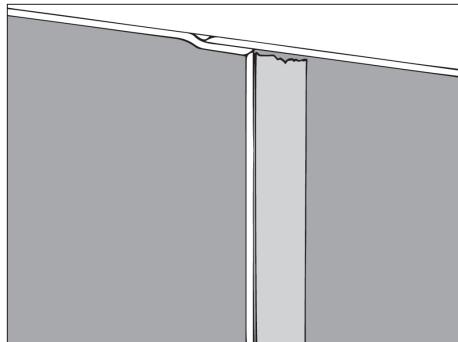


マスキングテープからはみ出さないように、重ね代にプライマーを塗布します。



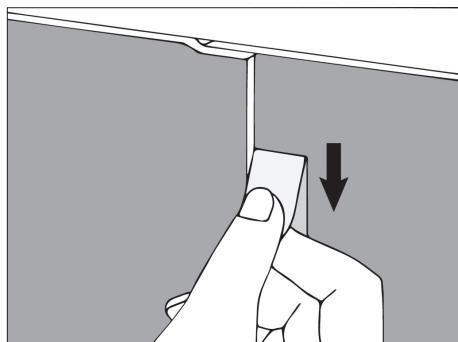
- ・ホワイトボード・リアテックコートは、表面に特殊加工をしているため重ねる部分にサンディングしてからプライマーを塗布してください。具体的な品番は見本帳をご覧ください。

③重ね貼り



プライマーが乾燥したら、2枚目のフィルムをマスキングテープに沿って貼り付けます。

④マスキングテープを取る

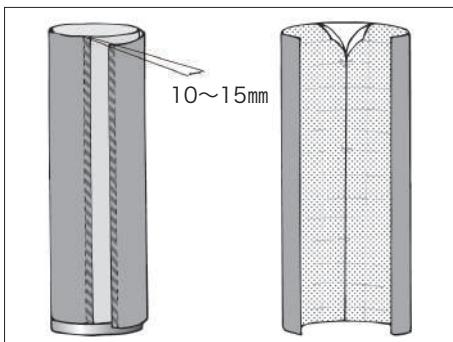


マスキングテープを真下に向かって剥がします。

9. 二次曲面(丸柱)への施工方法

二次曲面の中でも特徴的な丸柱などを仕上げる施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①下地処理・採寸・裁断と裏スリット

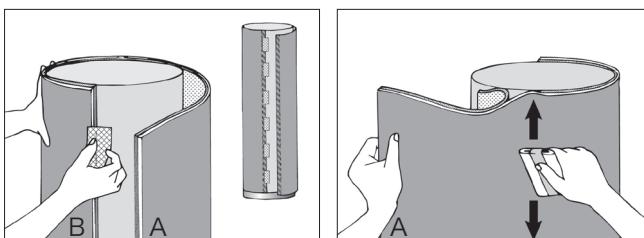


天地方向は基材の高さに合せ、左右の幅は貼り終わりが10~15mm程度重なる寸法で採寸・裁断します。
あらかじめ裁断したフィルム中央部の縦方向に、1本裏スリットを入れます。



・裏スリットは位置決めを正確に行うとともに、離型紙をスムーズに剥がすために行います。スリッターの刃は離型紙の切りカス等が残らないように、新しいものを使用してください。

②位置決めと貼り付け: A面



後から貼るB面のフィルムは、ずれないように養生テープで仮止めをしておきます。

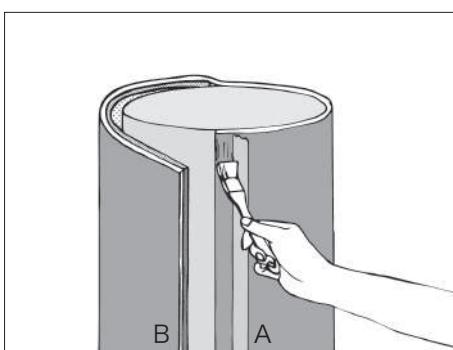
仮止めしていないA面の半分の離型紙を、センターの裏スリット部分から徐々に剥がしながら貼り付けていきます。

スキージーの動きは、中央から上下方向にシワを逃がしていきます。



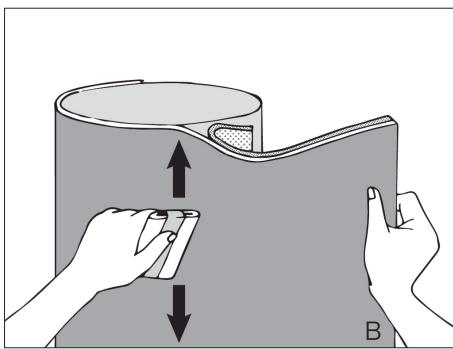
・製品幅に近いような幅広のフィルムを貼る場合には、2名以上で作業することをおすすめします。

③つなぐ部分のプライマー塗布

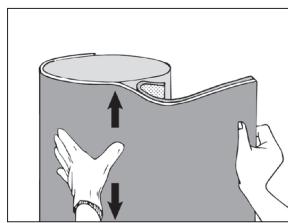


養生テープを剥がし、重ね代部分を10~15mm程度残してマスキングテープを貼り、マスキングテープからはみ出さないように、重ね代にプライマーを塗布します。

④貼り付け: B面と仕上げ



A面同様にセンターの裏スリット部分から徐々に剥がしながら離型紙を貼り付けていき、ジョイントは重ね貼りで仕上げます。最後に、マスキングテープを真下に向かって剥がし、余分なフィルムを取り除きます。

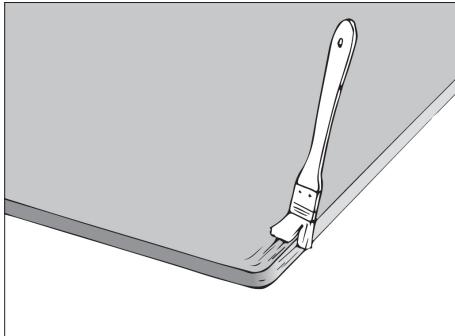


・丸柱は曲率が平均的で無い場合が多いため、離型紙を一気に剥ぎ取らず、ゆっくりとフィルムを下地にじませるようにして貼り付け作業を行ってください。スムーズに施工するために軍手の使用も有効です。

10. 三次曲面への施工方法

三次曲面のある天板や壁面への施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①プライマーの塗布



三次曲面を施工する場合は、フィルムの粘着力も弱くなるため、曲面部分にはプライマーを重ね塗りして接着力を強めてください。



・曲率が厳しい部分には、特にプライマーの塗布を念入りに行ってください。

②採寸・裁断

フィルムは伸ばしながら貼るため、必要な寸法より100~150mm程度大きめに裁断してください。

③平面の貼り付け

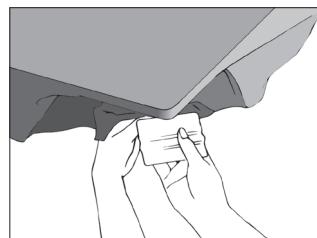
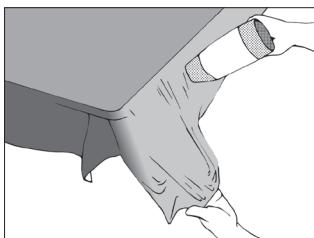
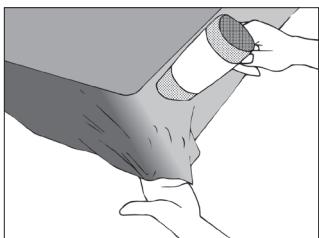
平面部から先に貼り付けてください。

④曲面の貼り付け

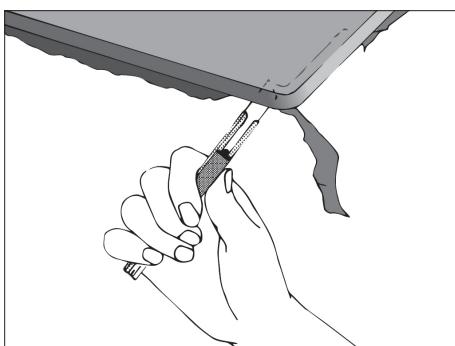
曲率の厳しい所からフィルムにドライヤーをあてフィルムが柔らかくなった後、曲面を手で伸ばしながら貼り付けていきます。フィルムが柔らかくなり伸び始めたら、フィルムをつかんだ手を両手前「フィルムが伸びてシワが伸びる方向」に徐々に引き伸ばします。コーナー部分を中心にも広がりに斜めに伸びながら曲面に沿って貼り込み、徐々にスキージーで圧着しながらシワや気泡が残らないように貼り込んでいきます。



・フィルムを伸ばす場合、できるだけ広い範囲で少しずつフィルムを伸ばすようにします。狭い範囲でフィルムを伸ばしてしまって、色や柄の変化が大きくなってしまう場合があるので注意が必要です。



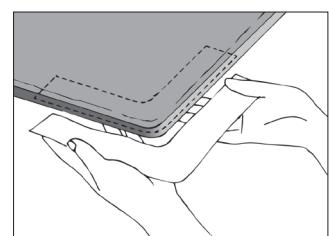
⑤裏面の処理



裏面の不要な部分をカッターで切り取り、スキージーで再度圧着してください。



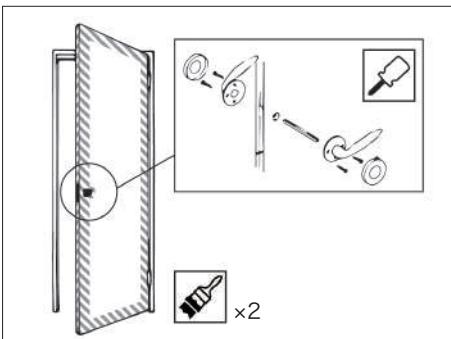
・加熱して伸ばした部分は、縮みにより剥がれる可能性があるので、フィルムを重ね貼りしてバックアップ補強してください。



11. 室内ドアへの施工方法

建具・ドアへの施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①表面清掃とプライマーの塗布

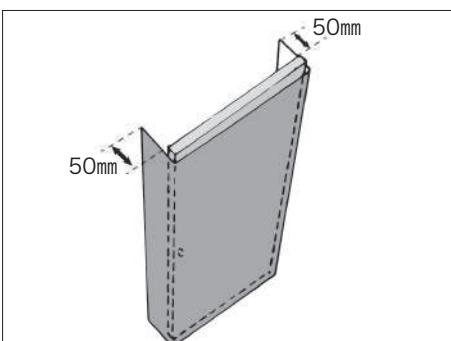


表面清掃を行い、油脂成分などを除去した後に全面にプライマーを塗布してください。



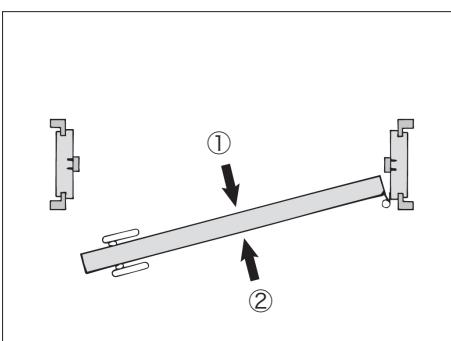
- 特に小口部分など接着面積の小さい部分はプライマーの重ね塗りを行ってください。
- ドアに貼り付け作業をする場合、ドアノブ・クローザーなどすべての部品を外して施工すると作業性もよく、きれいに仕上げることができます。

②採寸・裁断



ドアへ施工するフィルムは、横手部分を含む実寸法よりも100mm程度多めに裁断します。

③平面の貼り付け



ドアの平面部の貼り付けは、「平面部の基本的な施工方法」と同様に行ってください。

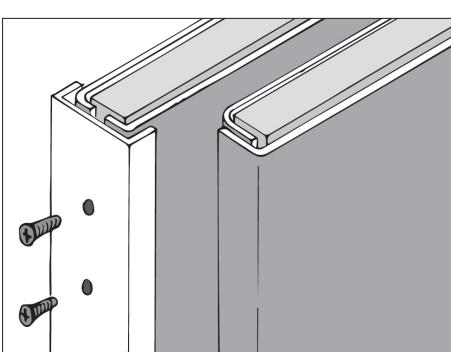


- 凸型の枠などへ施工に関しては、「出隅、入隅」部への施工方法を参考にしてください。



- フィルムの施工後、ドアと枠の隙間が足りない場合があります。施工前に確認してください。

④小口の貼り付け



ドアの両面をフィルムで仕上げる場合、小口分両面を巻き込んで重ね貼りをすることが一般的です。

ドアの横手の部分でフィルムを重ね貼りする場合は、下のフィルムにプライマーを塗布して乾燥させた後に、上のフィルムを貼り合せてください。

小口部分にカバーなどを後から取り付ける場合は、20~30mm程度巻き込んでください。



- フィルムを横手で重ね合せる場合、ドアが閉まった状態で重ね合せの小口が見えないように施工する方法が一般的ですが、重ね方向は確認の上施工してください。

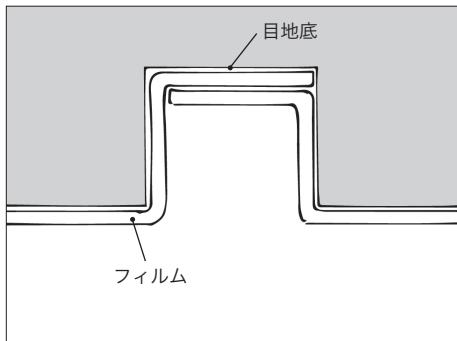


- フィルムの施工後、ドアノブなどを取り付ける際、インパクトドライバーなどで強く締め過ぎないでください。フィルムの浮きや縫れが発生する場合があります。

12. 目地部分(壁面・間仕切りなど)への施工方法

スチールパーテーションやボード面など下地に目地がある場合の施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①目透かし貼り(重ね貼り)



目地底でフィルムを重ね合せる場合の納め方です。

目地底とコーナー部分にプライマーを塗布してください。

1枚目のフィルムを目地底の入隅部までスキージーなどでしっかりと押し込んでください。

フィルムを重ね合せる目地底の部分には、必ずプライマーを塗布してください。

重ね合せる2枚目のフィルムを1枚目と同様に目地底に貼り込み、スキージーなどで押し込んだ後、余ったフィルムをカットしてください。

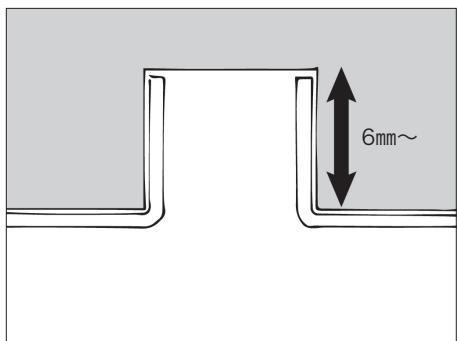


・カットした小口が正面を向いたり、立ち上がったりすると目立つことがあるので、切り付けの方向に注意してください。



・深さ5mm以下の浅い目地でも貼ることができますが、目地の深さが6mmを超える場合や、スキージーが入らない様な狭い目地幅の場合は、フィルムを押し込めず安定した施工ができないことがあります。

②落とし込み(目地底を貼らない)



目地の小口部分に貼り付け、目地底を貼らない方法です。

フィルムが跳ね返ってしまう場合があるので、目地の深さが6mm以上の小口に施工してください。



・目地材を押し込む際は、フィルムを傷付けないよう注意してください。

13. ユニットバスリフォームの施工方法

ユニットバスの壁面への施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①下地処理

使用されていたユニットバスにフィルムを施工する場合、汚れなどが残っていると接着不良の原因となるため、特に油脂成分の除去などを十分に行ってください。へこみやキズなどを修正する場合にはポリエチル系のパテを使用してください。

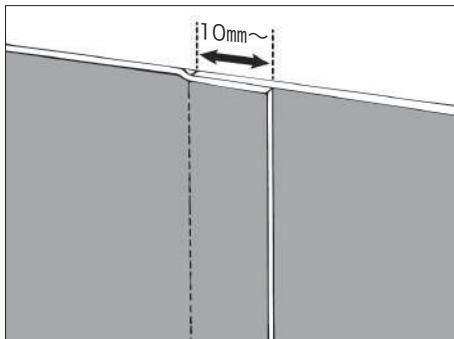


- 施工をするにあたって、ユニットバスの内部を十分に乾燥させた状態で施工を行ってください。



- 設備機器「水栓、ガス栓、電灯」の脱着などには、専門の業者を手配するなど、十分に配慮し行ってください。

②フィルムの貼り付け



壁面の清掃を十分に行った上、プライマーを全面に塗布してください。フィルムの貼り付けに関しては「平面、出隅、入隅」部への施工方法を参考にしてください。

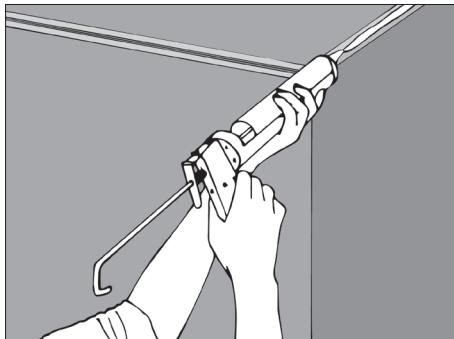


- フィルムのジョイントは重ねて施工してください。重ね幅は10mm以上取ってください。
- フィルムの重なり部分には、プライマーを塗布してください。



- 溶剤使用時には換気を十分に行ってください。
- 水のあたる方向に小口が向かないようしてください。

③仕上げ（コーティング）



フィルムが貼り上がったら、端部にマスキングをしてコーティング処理をしてください。



- コーティング剤がはみ出ないように丁寧にマスキングしてください。



- コーティングの処理が不足すると、端部から水分が侵入してフィルムの剥がれの原因となることがあるので注意してください。

14. 浴室パネルの施工方法

抗菌・防かびリアテックをラミネートした軽量な発泡パネルの施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。
既存の壁面の上に施工を行いますので、既存の壁面を壊す必要がなく騒音も出ず、廃材も少量ないため工期短縮につながります。軽量で持ち運びがしやすく狭い場所の施工にも適しています。

①下地処理

浴室の乾燥・換気

水気を十分に拭き取り、乾燥させてください。室内の換気も十分に行ってください。

シーリング剤等の除去

在来工法浴室の場合、目地部分のシーリング剤をカッター・スクレイパーなどで除去します。

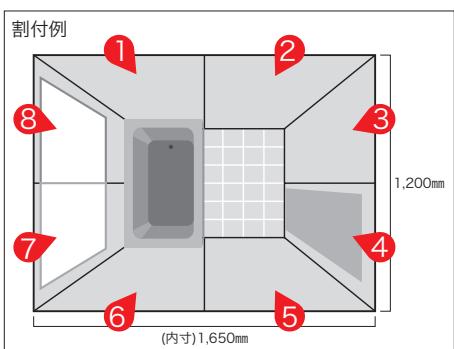
補修・調整

不陸の調整を行ってください。3mm以下の不陸については、施工用の両面テープで調整してください。3mm以上の不陸については、バテ・サンダーなどで調整を行うか、浴室用パネルの端材を利用しての下地調整も可能です。タイルの浮き・剥がれについてはモルタルや接着剤の充填を行ってください。

清掃

サンダーなどで削り粉や粉塵は接着不良に繋がるため、下地表面から除去してください。タイル面などに残っている、垢・石鹼成分・かび・汚れについては中性洗剤やアルコールなどで除去してください。その後、乾拭きしてください。

②割付



浴室寸法を確認し、施工範囲を決定します。
施工範囲に合せて、必要なパネル数量を算出します。

▼1,650mm×1,200mmの場合
・リアテック浴室パネル・・・8枚
・ジョイナー(平目地用)・・・4本
・ジョイナー(入隅用)・・・4本
※割付・工法によって、使用数量は異なります。

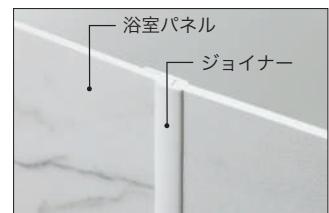


・浴室パネルを積み重ねる際は、異物が入らないようにご注意ください。痕が残る可能性があります。

・施工前は下地を清掃し、十分に乾燥させてから施工してください。

・接着剤を使用するため、施工については、温度10°C~30°Cで行ってください。

・リアテック浴室パネルは防火認定を取得しておりません。内装制限を受ける箇所には使用しないでください。



③採寸・裁断・穴あけ

採寸

前工程で行った割付を元に、採寸を行います。貼り始め位置を決め、測定の基準となる線を、振り下げ等を使用して垂直・水平に引きます。その部分から天井・壁面に向かって測定していきます。

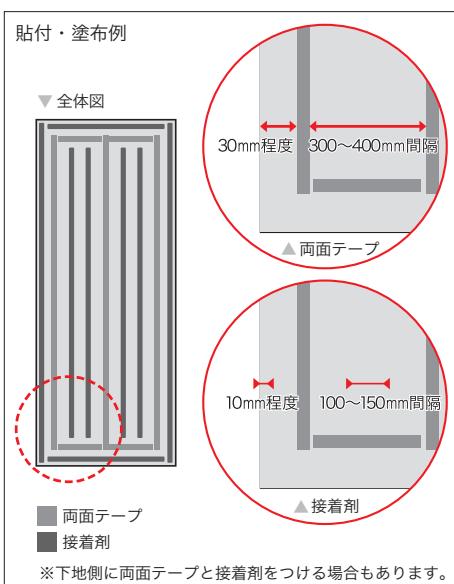
裁断

裁断については、カッターで裁断可能です。上記測定値に基づき、ジョイナー工法の場合はジョイナーの厚み分(2mm程度)をマイナスした寸法でカットします。mm単位の微調整はカンナを使用して行います。

穴あけ

各種器具や手すり等の設置に必要な穴は、事前にホルソー等を使用してあけておきます。サンダーなどで削り粉や粉塵は接着不良に繋がるため、下地表面から除去してください。タイル面などに残っている、垢・石鹼成分・かび・汚れについては中性洗剤やアルコールなどで除去してください。その後、乾拭きしてください。

④両面テープ貼付・接着剤塗布



両面テープ貼付

まず、仮止め用の両面テープを貼り付けます。浴室パネルの周囲(端部から30mm程度)とその間(300~400mm間隔)に貼り付けます。貼付数量の目安は、パネル1枚(3×8板)あたり9m程度です。

接着剤塗布

接着剤については、パネル端部と両面テープの間に、パネル端部から10mm程度離して塗布します。

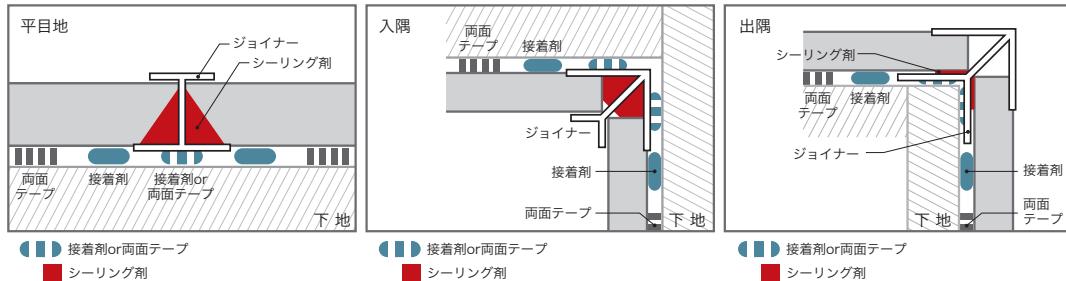
また、両面テープの間に100~150mmピッチ程度で直線に塗布していきます。塗布する位置がパネル端部に寄りすぎると、貼付時に接着剤がはみ出ることがありますのでご注意ください。

また、塗布量はパネル1枚(3×8板)あたり、1.5本程度(333ml/カートリッジ/本)で、両面テープよりも接着剤の山が1~2mm高くなるように塗布してください。

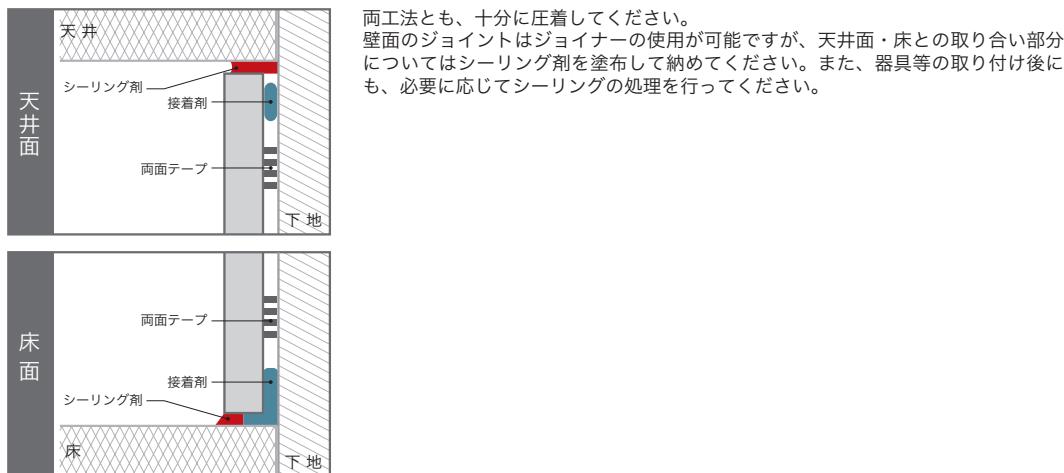
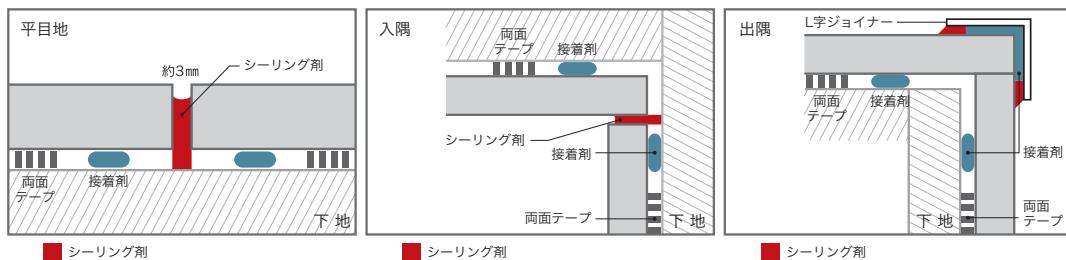
⑤パネル貼り付け

パネル貼り付け仕上げにはジョイナー工法とシーリング工法があります。

ジョイナー工法 ジョイナーをパネルと同寸法にカットし、一緒にセットして壁面に貼り付けます。
その際、ジョイナーとパネルの間にシーリング剤を充填します。



シーリング工法 ジョイナーを用いず、3mm程度の目地をとってシーリング剤でおさめる工法です。
目地部分は浴室パネルの端材等をスペーサーとして使用し、均一な隙間を空けてください。
貼り付け後、パネル端部に合せてマスキングテープを貼り、シーリング剤を充填します。



⑥清掃

表面についた汚れを中性洗剤で清掃してください。その後、乾拭きしてください。



<メンテナンス上のご注意>

- ・中性洗剤を使用し、柔らかいスポンジや布で清掃をお願いします。研磨剤の入ったスポンジや金タワシを使用しますと表面が摩耗し、抗菌・防かび効果が損なわれることがあります。
- ・シンナー・トルエンなどの溶剤での洗浄はお避けください。

15. リアテックパネルの施工方法

リアテックをケイ酸カルシウム板にラミネートした壁面パネルの施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

現場では指定工場で加工されたパネルの取り付けのみのため、廃材の発生を抑え、工期も短縮できます。

サイズや形状など、さまざまな割り付けが可能です。

①割付・採寸・墨出し

施工可能な下地であることを確認し、図面上で割付方法を検討したのち、現場にて実寸法を測り、墨出しをします。

施工可能な下地例：石膏ボード、ケイ酸カルシウム板、モルタル面、タイル面



- ・パネル規格：ケイ酸カルシウム板（比重 0.8 および 1.0）／厚さ 6mm・8mm
- ・対応サイズ：最大幅 1,150mm 最小幅 50mm／最大長さ 2,700mm／厚み 6mm（標準）および 8mm
- ・パネルのサイズによっては、フィルムに大幅なロスが生じる可能性があるためご注意ください。
- ・ケイ酸カルシウム板の規格によって、上記サイズ以外の対応も可能です。



- ・突きつけ施工はできませんので、必ず 3mm 以上の目地を取ってください。
- ・貼り付け面に各部材が取り付けられた状態でないと正確な寸法が測れません。
- ・切り欠きをする場合、加工の際にクラックなどが生じる可能性がありますので、1/3 以下の切り欠きは控えてください。

②工場でのパネル作成

弊社指定業者または指定工場でケイ酸カルシウム板にリアテックをラミネート加工します。



- ・単色やメタリック品などは、下地を拾いやすいため、サンダー掛けされたケイ酸カルシウム板の使用をおすすめします。

- ・詳細については弊社営業窓口までお問い合わせください。

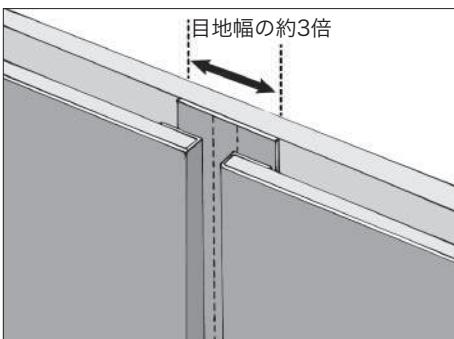
③下地処理

下地の状態によって、バテ処理など各素材に適切な処理を行ってください。ケイ酸カルシウム板・合板・モルタル面には必ずシーラー全面塗布が必要です。



- ・割付の際、下地材の目地とリアテックパネルの目地が重ならないように配慮し、やむを得ず重なる場合は下地調整を念入りに行ってください。

④目地テープの貼り付け



割付に合わせて、目地部分に目地テープを貼り付けていきます。

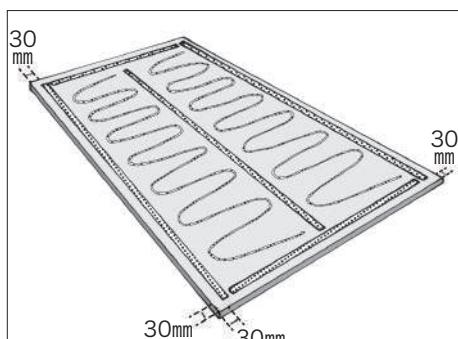


- ・目地テープの幅は、目地幅に対して約 3 倍以上の広さをおすすめします。（目地幅 6mm に対して約 20mm 程度）

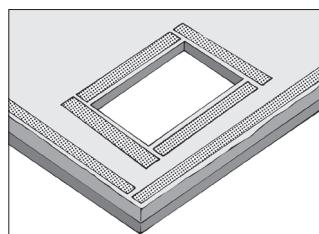


- ・目地テープやジョイナーの柄・目方向は必ず事前に確認してください。

⑤両面テープの貼り付けと接着剤の塗布



パネルボードの端部から 30mm 内側に仮止め用の厚さ 1mm・幅 15mm 程度の両面テープを貼り、仮止め用の両面テープ上を避けて、図のように接着剤を塗布していきます。



- ・接着剤は、塗布量が少ないと、浮きが発生する可能性があるため、必ず両面テープの厚み以上の高さで塗布してください。
- ・天井へ施工する場合は、両面テープの厚みや接着剤の塗布量を増やしたり、それ以外の固定方法も併せてご検討ください。



- ・貼り付けたテープはよく押さえてしっかりと圧着し、開口部がある場合は開口部を加工用に両面テープを貼り付けてください。
- ・接着剤の塗布量は、3 尺 × 8 尺 1 枚に対して 1 本 (333ml) が目安です。

⑤貼り付けと一般的な納まり図

目透し工法の断面図

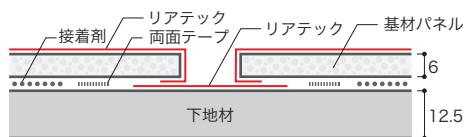


割付に合わせて、両面テープや接着剤が万遍無く貼り付くように車手を使い均等に圧着させながら、パネルを貼り付けていきます。

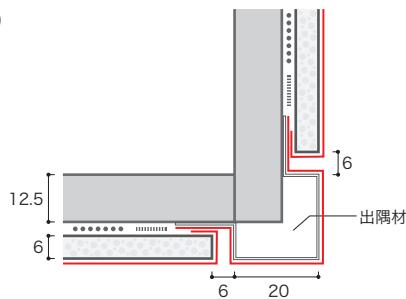


- ・目地幅にバラつきが発生しないよう、幅に合った厚みのアクリル板などを用意し、目地にあてがいながら施工してください。

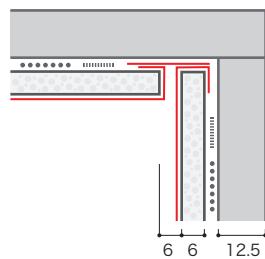
納まり図 ※数値は一般的な例になります。(単位: mm)



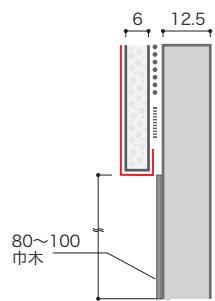
壁 (出隅)



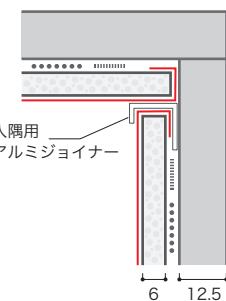
壁 (入隅)



床 (巾木)



壁 (入隅)



16. 玄関ドアフィルムの施工方法

ドアリフォームが素早くきれいにできる玄関ドアフィルムの施工手順と✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①施工の準備

- ・本製品の施工可能温度範囲は12~38°C程度です。最も施工に適した温度の範囲は20~25°C程度です。
- ・施工時のスキージング圧力が不足すると接着不足になり、剥がれ、浮き、エアー残り等の原因となる場合があります。
また本製品はエアスルー加工を施しておりません。そのためスキージーはワイドサイズでなく、レギュラーサイズをお使いください。
- ・スキージーを動かす幅は1/2ずつ重ねて、ゆっくりと圧力をかけてスキージングしてください。

②表面清掃

- ・表面清掃を行い、油脂成分などをアルコールで除去してください。エタノールでは油脂を十分に除去できない場合があります。
- ・油脂除去後は乾燥のためオープンタイムを1時間以上取ってください。

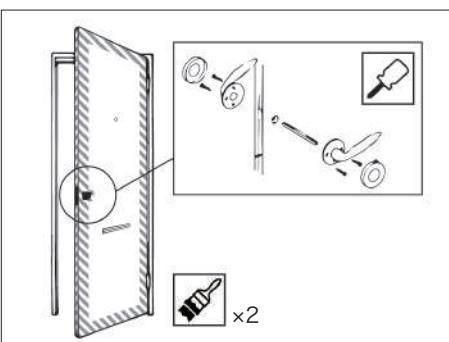


- ・金属下地以外は、不燃の対象となりません。塩ビ鋼板・焼付塗装鋼板・アルミニウム板などの金属板の場合、事前に塗装を剥がしてください。
- ・ドアに貼り付け作業をする場合、ドアノブ・クローザーなどのすべての部品を外して施工すると作業性もよく、きれいに仕上げることができます。



- ・トルエンやシンナー、ラッカーアスム液等の溶剤を使用すると、基材やフィルムが溶けたりフィルムを傷めたりするおそれがありますので使用を避けてください。

③下地処理



①パテ処理

ドアのへこみやキズなどは、ポリエスル系のパテで下地処理をしてください。

②サンディング

#180~240のサンドペーパーでサンディングしてください。

③清掃

パテをサンディングした後、付着した粉をブラシなどできれいに取り除き、アルコールを含ませたウエスで清掃してください。

④プライマー塗布

ベンリダイナRSをムラなく全面に塗布します。



- ・下地仕上げ用パテはポリエスル系パテをご使用ください。特に屋外環境では吸湿性のあるパテを使用すると湿気や水分等によりフレークにつながる場合があります。内装用や石膏系のパテは使用しないでください。

- ・プライマーは全面にムラ無く均一に塗布してください。特に端部や入隅・出隅などにはしっかりと塗布してください。

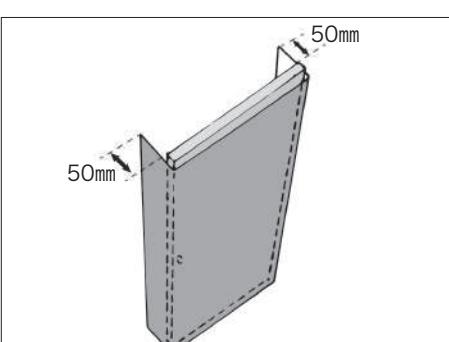
- ・下地がフッ素系やシリコーン系など特殊な塗装、通常塗装でも劣化した状態のもの、プライマーが密着しない材質の場合には施工出来ません。

- ・塩ビ鋼板の場合、プライマー等に含まれる溶剤が塩ビ面に残留しやすいため、オープンタイムを長めにとるようにしてください。

- ・木質系のドアへの施工はフレークが発生する場合があるので施工しないでください。

- ・下地が錆びている場合は錆を落としてから施工をしてください。錆が激しい場合は施工できません。また本製品によってドア面の腐食ならびに錆を防ぐことはできません。

④採寸・裁断



ドアのフィルムは横手部分を含む実寸法よりも100mm程度多めに裁断します。

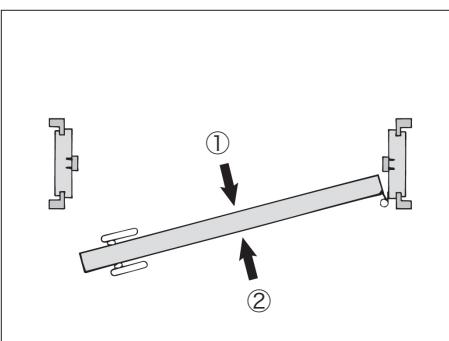


- ・フィルムの施工後、ドアと枠の隙間が足りない場合があります。施工前に確認してください。

- ・浮き・剥がれ・割れなどの原因となるため、エア抜き後に再度入念な圧着を行ってください。

- ・プレスドアなど凸凹部分への施工は、プライマーの重ね塗りを行い、ドライヤーなどを使用し加熱しながら貼り施工を行ってください。

⑤平面の貼り付け

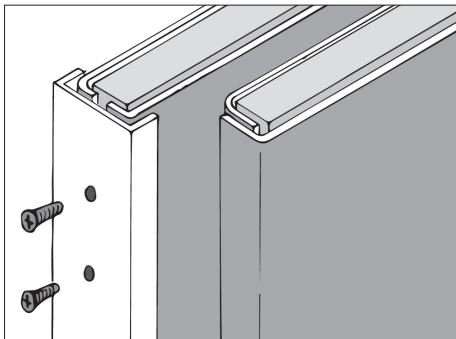


ドアの平面部の貼り付けは、「平面部の基本的な施工方法」と同様に行ってください。



・凸型の枠などへ施工に関しては、「出隅、入隅」部への施工方法を参考にしてください。

⑥小口の貼り付け



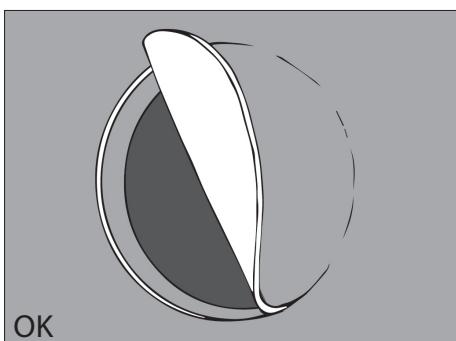
ドアの両面をフィルムで仕上げる場合、小口分両面を巻き込んで重ね貼りをすることが一般的です。
ドアの横手の部分でフィルムを重ね貼りする場合は、下のフィルムにプライマーを塗布して乾燥させた後に、上のフィルムを貼り合せてください。
小口部分にカバーなどを後から取り付ける場合は、20~30mm程度巻き込んでください。



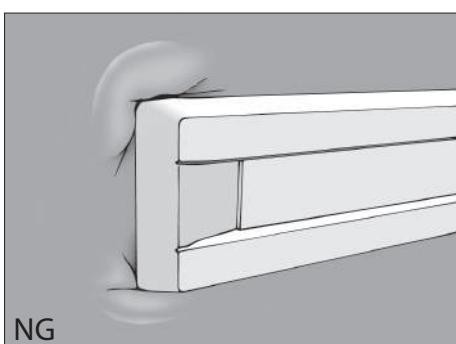
- ・フィルムを横手で重ね合せる場合、ドアが閉まった状態で重ね合せの小口が見えないように施工する方法が一般的ですが、重ね方向は確認の上施工してください。

⑦切り付け

金具などを取り外した開口部の形状に合せて、きれいにカッターで取り除いてください。
フィルムのカットの仕方が悪いと、ドアスコープなどを取り付けた際、フィルムに浮きや割れが生じるおそれがあるので、開口部の形状に合せてきれいにカッターで取り除いてください。



⑧金具の取り付け



取り付け金具の周りは、締め付けによる浮きが生じる可能性があるため、必ずプライマーの重ね塗りを行ってください。
ドアポストなどを取り付ける際、強く締め過ぎることで金属が変形し、フィルムに浮きや割れが生じるおそれがあります。



- ・フィルムの施工後、ドアノブ・ドアスコープなどを取り付ける際、フィルムの浮きやよれが発生しないようインパクトドライバーなどで強く締め過ぎないでください。

⑨注意事項

- ・ドライヤーやヒートガンでフィルムを加熱する際、1か所を連続的に加熱するとフィルムの光沢が上がり、最終的には破れる可能性があります。手の動きを止めず、狙った箇所の周囲も含めて温める様に作業してください。
- ・直射日光が当たる環境では下地が熱くなり、フィルムの初期接着力が極端に強くなる事があります。その場合はフィルムの置きなおしが出来ない場合があるため、慎重に位置決めしてください。
- ・低温環境下ではフィルムの接着力が発揮されにくく、接着不良が発生しやすくなります。またフィルムに割れや裂け、折り曲げ部分の白化が発生しやすくなる事があります。その場合はジェットヒーター等で施工環境を15°C以上に上げてから施工していただくか、ドライヤーやヒートガンでフィルムを温めながら施工を行ってください。

17. エレベーター(扉・カゴ内)へ施工する場合の注意事項

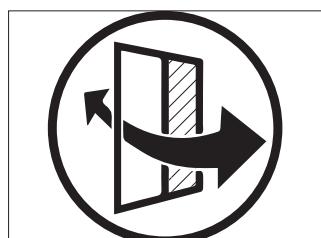
エレベーターの扉とカゴ内へ施工する場合の✓ ポイントおよび! 注意点を説明します。

①下地清掃

使用年数の長いエレベーターへ施工する場合など、細部や扉など可動部に油脂成分が多く付着している場合があるので、油脂成分の除去を十分に行ってください。



- ・危険防止のため、電源を落とした状態で施工してください。
- ・密室での作業となるため、溶剤使用時には十分に換気を行い、有機溶剤用の吸収缶付のマスクを使用するなどしてください。



②下地処理

①パテ処理

下地にキズや凹みがある場合には、ポリエスチル系パテを使用して補修してください。
※推奨品 ロックペイント・ロックポリパテ

②サンディング

全体を#180~240のサンドペーパーでサンディングして、平滑にしてください。

③清掃

表面にパテの粉が残っていると接着不良に繋がるため、ブラシ等で十分に粉・塵埃を除去してください。

③表面清掃

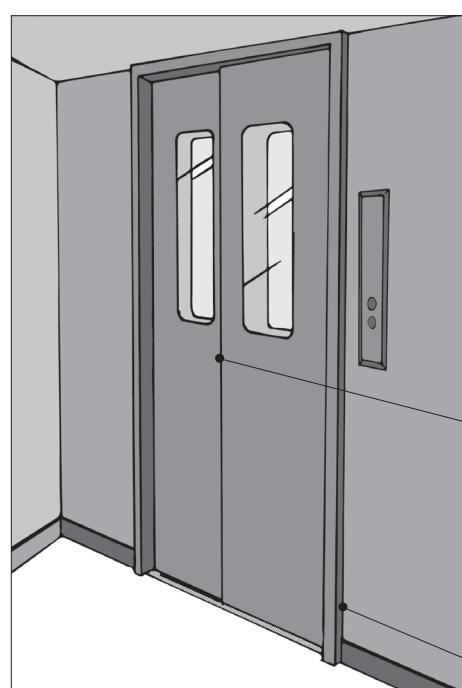
アルコールを含ませたウエス等で全面清掃してください。

④プライマー塗布

扉表面に塗装がある場合には、プライマーが塗装を侵さないことを確認し、全面にムラなく塗布してください。

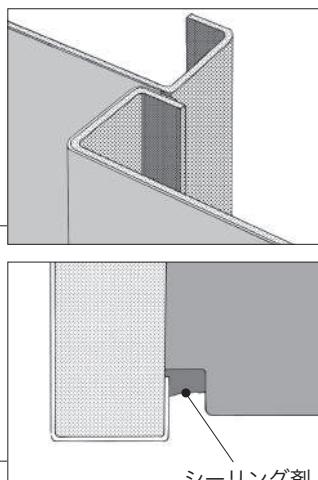
※推奨プライマー RS

⑤貼り付け

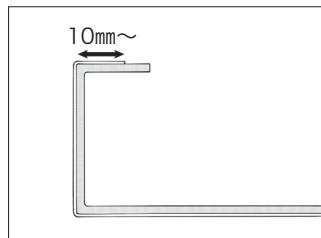


プライマーが十分に乾燥したことを確認し、貼り付けてください。
扉の出隅部分は必ず巻き込んでおさめてください。

低温時や出隅への巻き込み時には、ヒートガン等を使用し、シートを温めながら施工してください。



- ・扉内側の巻き込みについては、巻き込み幅を10mm以上とりつつ、下地と接着していない部分が出ないように注意してください。



⑥仕上げ

貼り付け面全体に再度圧着を行ってください。
エアーが残っていると外気温の変化によってフクレに繋がることがありますので、十分に圧着してください。



- ・基本的に、扉はカゴの中側からしか開閉することができないため、エレベーターの外扉へ施工する場合、扉の開閉など、2名以上で作業するとスムーズに施工することができます。

18. メンテナンス上の注意事項

リアテックの美しさを長期にわたり保つために、付着した汚れはできる限り速やかに清掃してください。

メンテナンス上の注意

日常のメンテナンス

日常的な汚れは薄めた中性洗剤とスポンジなどで清掃してください。清掃後は水拭きを行い、本品表面に残った洗浄剤を除去してください。
強く擦り過ぎると表面の色・艶が変化する場合がありますのでご注意ください。

クレンザーや研磨剤

クレンザーなど研磨剤が含まれている洗浄剤やスポンジ、またシンナー等の溶剤は使用しないでください。
キズや変色が発生する場合があります。

漂白剤・ヘアマニキュア

水まわりにご使用の場合、ヘアマニキュアなどを付着させないようご注意ください。
また、漂白成分が含まれる洗剤を使用した場合、表面の色・艶が変化する場合がありますのでご注意ください。

19. 保管・輸送上の注意事項

保管・運搬上の注意

保管方法

使用後に残った本品を保管する際には、手で巻きしめ、テープ止めをして緩みがないようにしてください。
緩めて保管しますと、離型紙とフィルムが剥離する場合があります。
直射日光や高湿度下を避け、周囲温度38°C以下の清潔な場所に保管し、購入後1年以内に使用してください。

無理な運搬はしない

本品は重量物となるため、お取り扱いの際は十分な安全確保をし、無理な運搬は避けてください。事故や怪我の原因となります。

高所から落とさない

本品はトラックの荷台など高い所から落とさないでください。破損や怪我の原因となります。

その他

床に放置すると危険

離型紙や端材を床に放置すると歩行中の転倒のおそれがあります。

有機溶剤・引火

有機溶剤が含まれているシーラー・プライマーをご使用の際は、十分な換気を行い、また引火を防ぐため、火器類を近づけないようにしてください。
重大な事故に繋がるおそれがあります。

廃棄物

端材などの廃棄については、しかるべき資格を有する産業廃棄物処理業者に直接廃棄を委託してください。

リアテック施工マニュアル

発行：株式会社サンゲツ スペースプランニング部門 壁装ユニット壁装購買課

© sangetsu

2017.07 初版

2018.01 改訂

2019.11 改訂

2020.07 改訂

2021.11 改訂

2024.01 改訂

・この施工マニュアルは、2024年1月現在のものです。

・商品規格の改定などにより、施工方法が変更となる場合がありますので、ご了承ください。